

科目名 (英) 学科・専攻	人間と哲学 (Human and philosophy)	必修選択 授業形態	必修 講義	年次 総時間 (単位)	1年 15時間 (1)	担当教員 開講区分 曜日・時間	明戸 隆浩					
	看護学科						前期					
【授業の学習内容と心構え】												
社会学・社会哲学を専門にする研究者であり、とくに近年は民族差別やヘイトスピーチの研究を進めながら、実際の差別やヘイトスピーチの被害当事者を支援する活動にも関わってきた。そうした蓄積をふまえてこの授業では、いじめから安楽死までさまざまな社会問題を「当事者」と「支援者」の関係という視点からとらえ、みなさんと一緒に考えていくたい。こうした視点をもつことで、自分が「支援者」として医療にかかわる場合にはもちろん、将来自分が何らかの事情で「当事者」になったときにも、そこで問題の本質をとらえる力(=哲学)を発揮できるようになるはずだ。												
【到達目標】												
(1) 現在重要な課題となっている社会問題について、基本的な知識を習得する (2) (1)で得た知識をもとに、当事者／支援者関係の視点から社会問題をとらえる力をつける (3) (1)(2)で得た知識や視点を活用し、自分自身の考えを文章にまとめたり、必要に応じて発表したりする力をつける												
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】								
参考書: 松本俊彦編『「助けて」が言えない——SOSを出さない人に支援者は何ができるか』(2019年、日本評論社)				毎回関連する書籍などを紹介するので、自分の興味関心に応じて自分なりに読み進めてください。								
回	授業概要	回	授業概要									
1	【授業単元】 イントロダクション 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) この授業の進め方を適切に把握する (2) 当事者／支援者関係についての基本を理解する (3) 授業で扱う社会問題についての概要を頭に入れる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
2	【授業単元】 当事者／支援者関係から見る「いじめ」 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) いじめ問題についての基本的な知識を把握する (2) いじめ問題を「被害者」「加害者」「傍観者」という構造でとらえ、「傍観者(=バイスタンダー)」が「支援者(=アップスタンダー)」になるために必要な条件を整理し、理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
3	【授業単元】 当事者／支援者関係から見る「犯罪被害」 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) 犯罪被害の問題についての基本的な知識を把握する (2) 犯罪被害うつぐに性被害について、被害を「一次被害」と「二次被害」に分けてとらえ、そうした重層的な被害の中で被害者を支えるために必要な条件を整理し、理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
4	【授業単元】 当事者／支援者関係から見る「多文化共生」 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) 多文化共生についての基本的な知識を把握する (2) 多文化共生にかかる支援のうつぐに外国人の子供に対する支援について、「文化」が異なる相手を支援するために必要な条件を整理し、理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
5	【授業単元】 当事者／支援者関係から見る「薬物依存」 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) 薬物依存とその回復についての基本的な知識を把握する (2) 薬物依存からの回復の具体的なプロセスを「ダルク」の事例を通して把握し、そこにおける当事者および支援者の役割について整理し、理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
6	【授業単元】 当事者／支援者関係から見る「自立」 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) 障害者の「自立」についての基本的な知識を把握する (2) 障害者の「自立」の具体的なプロセスを「べてるの家」の事例を通して把握し、「当事者研究」と呼ばれるべてる独自のプログラムの特徴について整理し、理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
7	【授業単元】 当事者／支援者関係から見る「安楽死」 【授業形態】 講義 【到達目標】 (1) 安楽死／尊厳死についての基本的な知識を把握する (2) 安楽死のうちぐにALS(筋萎縮性側索硬化症)患者が自ら死を望んだ場合にどのように支えるかという問題について、考えるべき視点を整理し、理解する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
試験	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 この授業で扱った内容についてあらためて整理し、それをふまえて自分なりに興味を持った事例について自分自身の考えをまとめることができる			【評価について】 毎回の講義での課題(50%) 修了認定試験試験(50%)								
【特記事項】												

科目名 (英)	看護物理学 Nursing physics	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	小沢 昭二	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
高校で教鞭を取った講師が授業を担当する。看護に必要な物理学について、単元ごとに内容を説明し、理解させ、練習問題を解いていく。								
【到達目標】								
看護師として使用する単位を理解し、換算計算ができる。また原理を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
おもしろくてよくわかる単位と計算								
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】看護の長さ・面積・量・重さ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護で必要な長さの単位を理解できる。体表面積の理解。量・重さの換算と表示量の理解ができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】看護の濃度 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護での濃度希釈の理解及び希釈の計算ができる。人体pHの理解ができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】看護の圧力 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 血圧・心臓の圧力が理解できる。酸素ボンベの表示圧力の理解と酸素量の計算ができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】看護の速さ・力の合成と分解・トルク・摩擦 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 点滴速度の理解と計算ができる。看護での力の合成と分解が理解できる。看護で使用している器具のトルクが理解できる。摩擦原理の理解と計算ができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】看護の波 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 音・光・電気の単位が理解できる。病院環境基準が理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】栄養 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 栄養の単位・肥満度の理解ができる。BMIの計算ができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】温度・湿度 【授業形態】講義 【到達目標】 温度と湿度の単位の理解ができる。病室の環境・新生児室保育環境の理解ができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
試験	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】			【評価方法について】 学則の評価基準に準ずる				
【特記事項】								









科目名 (英)	発達心理学 (Developmental psychology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	矢代 佐枝子	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 3時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
発達心理学を専攻し、複数の大学や専門学校で心理学を教えていた教員が講義を行う。 誕生から死までの人の心の発達を、年齢によって区切られる段階ごとに論じる。各段階の特徴を理解することは大切だが、それらは独立したものではなく、連続し、影響し合うものであるということを同時に理解することが最も重要である。心理発達理論を通して、適忯的に生きるために必要なものは何かを理解し、得られた知識を異なる年齢の人々とのコミュニケーションに用いるとともに自らの人生設計にも活かしてもらいたい。								
【到達目標】								
発達段階について理解する。 発達の諸理論(エリクソンの理論、ピアジェの理論、愛着理論)について理解する。 心理的健康度が高い状態を実現するために、育ちの中で必要なものとは何かを理解する。 発達障がいについて知識を得る。								
【使用教科書・教材・参考書】 講義資料を配布します。				【授業外における学習】 自分とは異なる年代の他者とコミュニケーションをするとき、講義で学んだ知識に照らし合わせながら言動を理解することが望ましい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】発達心理学とは・乳児期 【授業形態】講義 【到達目標】 エリクソンの漸成発達理論の8段階を列挙できる 基本的信頼感を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
2	【授業単元】親子関係の発達 【授業形態】講義 【到達目標】 母子相互作用の質に影響する2つの要因を説明できる 愛着の3タイプを説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3	【授業単元】認知発達理論 【授業形態】講義 【到達目標】 知的発達における4つの段階の名称を列挙できる 各段階の特徴を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
4	【授業単元】前期幼児期・遊戯期・学童期・青年期 【授業形態】講義 【到達目標】 「自律性」「主導性」「生産性」「自我同一性」という言葉の意味を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5	【授業単元】早期成人期 【授業形態】講義 【到達目標】 早期成人期に現れる5つの指標を列挙できる 「親密性」の意味を説明できる 「可能自己」の意味を説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
6	【授業単元】中年期 【授業形態】講義 【到達目標】 「世代性」と「停滞」という言葉の意味を説明できる 「サンドイッチ世代」の意味を理解できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7	【授業単元】老年期 【授業形態】講義 【到達目標】 高齢者の身体的・経済的・依存性について説明できる 高齢者の「英知」について説明できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
試験	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】	【評価方法について】 評価は、筆記試験とレポートで行う。 筆記試験は定期試験として実施し、講義内で扱った内容の定着度を確認する。 レポートは中間レポートとして講義期間中に実施する。講義内容について思ったことや考えたことを自分の言葉で文章にする。講義内容を理解し、自分なりの考え方を持ち、適切に表現できるかどうかを評価する。 評価配分は、筆記試験(修了認定試験)が60%、レポート(中間レポート)が40%である。						
【特記事項】								

科目名 (英)	医療・看護の社会学 (Sociology of medicalcare and nursing)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	野澤 和弘
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(1)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】							
毎日新聞論説員を経て、秋草学園大学副学長・発達教育学部教授であり、障害児・者に関する協会・法人、厚生労働省・内閣府の業務に携わっている者が教授する。 全国で講演なども数多く行い、毎日新聞退社後も記事を書いている。少子高齢化や医療技術、人工知能(AI)が進化していく中で、医療・看護が置かれている状況を把握し、本人(患者)主体の医療や看護をどう実現していくかを主体的に考えられるようとする。医療・看護部門の専門職として倫理観を身につけ、仕事のやりがいや生きがいを自らつかみ、周囲の人々にも伝えていく人材の育成を目指す。							
【到達目標】							
社会状況の移り変わりを踏まえた上で、患者・利用者を中心とした医療看護や福祉の理念について理解すること。さまざまな実践に興味を持ち、能動的に学び、自ら参加する意欲を高める。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
配布資料				障害者福祉の現場でのボランティア(アルバイト)活動、「障害者のリアルに迫るゼミ」などについて授業で紹介するので、そうした現場に参加することが望ましい。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】ガイダンス 私たちは何のために働くのか 【授業形態】講義 【到達目標】 日本型雇用の特性を理解し、卒業後の自らの働き方について課題や希望を整理した上で、この授業で何を学ぶかを説明できる。	9	【授業単元】相模原事件と優生思想 【授業形態】講義 【到達目標】 障害者の生きる意味について深い議論ができる 優生思想の歴史や今日的課題について説明できる				
2	【授業単元】患者(利用者)や家族の気持ちをどう汲み取るか～障害者虐待から学ぶ 【授業形態】講義 【到達目標】 障害者虐待の実態と取り組みの経緯を理解できる 利用者や家族の心理について理解し、それをなくすための取り組みについて説明できる	10	【授業単元】発達障害とコミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】 コミュニケーション支援の重要性について理解できる 認知の多様性について説明できる				
3	【授業単元】患者(利用者)の心理と身体拘束 【授業形態】講義 【到達目標】 講義・グループディスカッション 身体拘束の3要件について述べることができる 身体拘束をなくす取り組みの意義や方法について理解できる	11	【授業単元】共生社会と人口減少 【授業形態】講義 【到達目標】 人口減少がもたらす危機について説明できる 共生社会とは何なのか、本質を理解できる				
4	【授業単元】意思決定支援 【授業形態】講義 【到達目標】 意思決定支援の背景や意義について説明できる 患者・利用者主体の支援について理解し説明できる	12	【授業単元】多様性と障害者差別解消法 【授業形態】講義 【到達目標】 障害者差別をなくす国内外の取り組みについて説明できる 合理的配慮が求めるものの意味を説明できる				
5	【授業単元】ALS患者と生きる意味 【授業形態】講義 【到達目標】 生きることの意味について深い議論ができる	13	【授業単元】児童虐待 【授業形態】講義 【到達目標】 児童虐待の原因や背景について理解できる 児童虐待の取り組みについて説明できる				
6	【授業単元】生殖補助医療と社会 【授業形態】講義 【到達目標】 生命倫理について関心を持ち調べる意欲を持つ 医療技術と人間の幸福について深く考えることができる	14	【授業単元】子どもの貧困、いじめ、ひきこもり 【授業形態】講義 【到達目標】 講義・グループディスカッション 子どもが置かれてる状況を理解できる				
7	【授業単元】終末期医療をめぐる今日的課題 【授業形態】講義 【到達目標】 世界と日本の状況について説明できる 医療スタッフと患者や家族の立場の違いを理解できる ACPIについて説明できる	15	【授業単元】修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 変わりゆく社会の中で医療看護の役割や意味について深く考える姿勢を身につける。 実践の中で生かせる知識やモチベーションを形成する。				
8	【授業単元】薬害エイズにみる医療の倫理 【授業形態】講義 【到達目標】 薬害エイズ事件の教訓について理解できる	【評価について】 評価は毎回授業の最後に書くアクションペーパー(40%)、出席率(20%)、 授業態度(20%)、試験(20%)で行う。					
【特記事項】							

科目名 (英) 学科・専攻	英語 I (English conversation I ) 看護学科	必修選択 授業形態	必修 講義	年次 総時間 (単位)	1年 15時間 (1)	担当教員 開講区分 曜日・時間	ILC / Amis 前期 土曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】							
滋慶学園の英語教育に長期にわたり携わってきたネイティブ英語教員が、基本的な表現を使って、Activeにコミュニケーションする授業を行う。外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくとも意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることが目的なため、英語でのコミュニケーションは楽しいと感じてもらいたい。							
【到達目標】 日常生活における基礎的な会話を学び、異文化・異言語の人々とのコミュニケーション能力を高める。							
【使用教科書・教材・参考書】 Speak Now 1 副教材(医療・看護に関連する語彙、フレーズなど)				【授業外における学習】 自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行う。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 L1 挨拶 【授業形態】 講義 【到達目標】 挨拶が出来るようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 L3 個人の情報 【授業形態】 講義 【到達目標】 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 L6 好き嫌いの表現 【授業形態】 講義 【到達目標】 好き嫌いを表現出来るようになる 相手に好みを尋ねることが出来るようになる 相手に質問で返すことができるようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 L8 意見を表す表現 【授業形態】 講義 【到達目標】 相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることができるようになる 誘いに返答することが出来るようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 L11 褒め言葉、服装に関する表現 【授業形態】 講義 【到達目標】 相手について褒めることができるようにになる 褒め言葉に対して返答出来るようにになる 人の服装について尋ねることが出来るようになる 人の服装を説明する事が出来るようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 L7 時間にに関する表現 【授業形態】 講義 【到達目標】 時間について尋ねる、伝達することが出来るようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 L13 日常生活に関する表現1 【授業形態】 講義 【到達目標】 日常生活について尋ねることが出来るようになる 日常生活について説明することが出来るようになる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業内で学習した内容の定着度を確認する。筆記試験は小テスト(40点)と試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	人間関係論Ⅰ (コミュニケーション論)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	早坂 直子
		授業形態	講義	総時間(単位)	15時間(1)	開講区分	前期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】							
看護師として臨床経験のある講師が授業を担当する。医療現場で働くための必要なコミュニケーションスキルを習得する。看護の対象者と連携した多職種などコミュニケーション場面は多い。仕事を進める上で、スタッフ間の連絡・報告・相談が必要になる。基礎的なコミュニケーションスキルの習得を目指す。							
【到達目標】							
1.社会人に必要なコミュニケーションを達成するための方法を習得する。 2.効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解する。 3.コミュニケーションスキルアップ検定に合格する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
コミュニケーションスキルアップ検定 滋慶教育科学研究所・監修							
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】コミュニケーションとは何か 【授業形態】講義 【到達目標】 自分のコミュニケーションスタイルを確認することができる。 適切な言葉がけを具体的に述べられる。 非言語的コミュニケーションの種類とそれぞれの役割を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】基本的会話スキル 【授業形態】講義 【到達目標】 話すとき、聞くときの基本的な考え方と方法を理解できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】基本的会話スキル 【授業形態】講義 【到達目標】 グループでのコミュニケーションを理解できる。構成的エンカウン		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】自己表現スキル 【授業形態】講義 【到達目標】 自己理解を深めることができる。伝えることを中心とした自己表現の考え方と表現方法を理解できる。挨拶や関係づくりの基本が理解できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】アンガーマネジメント 【授業形態】講義 【到達目標】 感情のコントロールとコミュニケーショントラブルについて理解できる。アサーティブな対応が理解できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】社会的スキル 【授業形態】講義 【到達目標】 社会人としての基本的マナーを中心に、身に着けるべき知識と技術を学ぶ。文書やメールなどの基本的マナーが理解できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】サービスマインド 【授業形態】 【到達目標】 「相手の立場に立つ。積極的に言葉や態度で表現する。感謝の気持ちを行動にする。」などサービスマインドの具体的行動が理解できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】 試験	【評価について】 科目終了後、筆記試験を実施する。修了認定評価基準に沿って評価する。					
【特記事項】							
課題を実施して参加することを原則とする。							

科目名 (英)	人間関係論Ⅱ(マナー・ホスピタリティ) (Human Relations)	必修選択 授業形態	必修 講義・演習	年次 総時間 (単位)	1年 15時間 (1)	担当教員 開講区分 曜日・時間	谷川 陽子					
	看護学科						前期 金曜日 4限					
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】												
航空業界において32年間にわたり、「ホスピタリティー・サービス」を展開し、後に介護付有料老人ホームのコンシェルジュセクションを業務委託する会社を起業し、同時に大学で「ホスピタリティー論」「ビジネスマナー」を教授、企業での「接遇研修」も実施している教員が授業を行う。医療業界も今や「サービス業」と捉えられ、モノや情報に溢れる現代こそ「心」を主体とした「医療サービス」が求められている。とりわけ、コロナ禍では医療従事者のコミュニケーション能力は時には医療行為以上に重要視されている。受講生には専門知識同様「眞の医療行為とは何か?」を講義を通じて習得して欲しい。												
【到達目標】												
人間関係を潤滑にする「コミュニケーション能力」を有する具体的な方法を習得する。その為には「言語によるコミュニケーション」と「非言語によるコミュニケーション」を学び、対人関係において、どのように表現すれば「最良の自分」を伝えられるかを醸成する。												
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナル資料				【授業外における学習】 毎回の授業を必ず復習し、日々の生活の中で「最良の自分」を表現してみる。								
回 授業概要				回 授業概要								
1	【授業単元】講義の目的・第一印象・自己紹介の仕方 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・「第一印象」の重要性を理解して「良い印象」を与えられる ・「自己紹介」のポイントを学び、「円滑な自己紹介」を実施できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
	【授業単元】ビジネスマナーⅠ「挨拶」 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 印象の良い「挨拶」が出来る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
3	【授業単元】ビジネスマナーⅢ「身だしなみ」・Ⅳ「所作」 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・「おしゃれ」と「身だしなみ」の違いが分かる ・制服を適性に着こなせる ・丁寧な「所作」が出来る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
	【授業単元】ビジネスマナーⅡ「表情」 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・「おしゃれ」と「身だしなみ」の違いが分かる ・制服を適性に着こなせる ・丁寧な「所作」が出来る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
5	【授業単元】ビジネスマナーV「言葉遣い」① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・「尊敬語」「丁寧語」「謙譲語」を使い分けられる ・言葉のトーン、速さ、明るさを適宜に使い分けられる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
	【授業単元】ビジネスマナーV「言葉遣い」② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・様々なシチュエーションで言葉を使い分けられる ・クレーム対応、電話応対が適正に出来る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
7	【授業単元】模擬面接 【授業形態】演習 【到達目標】 ・インターンシップや就職試験の際の「面接」で自分自身を表現出来る			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】								
	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 「ホスピタリティーとは何か?」、「言語によるコミュニケーション」と「非言語によるコミュニケーション」との違いが習得出来ているかを確認する			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した事項の確認、定着度を確認する。筆記試験は修了認定試験の100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。								
【特記事項】 毎授業の資料の「空欄」は授業内で解答する形式を取る												





科目名 (英)	解剖生理学III (Anatomy and physiology III)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員 中村 陽市
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15時間	
学科・専攻	看護学科					開講区分 曜日・時間 前期
【授業の学習内容と心構え】						
医学博士であり、死体解剖資格を有する講師が授業を担当する。臨床にとっての基礎となる基礎医学系の解剖学と生理学を通して、人体の構造と機能について、各部の名称を覚えながら機能を理解する。 解剖生理学IIIでは、神経系、感覚器系、免疫系について学習するので、理解に努める。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の臨床に結び付く人体の構造と機能について説明できる。</li> <li>・神経系、感覚器系、免疫系の各器官の名称とその機能について説明できる。</li> <li>・人体を三次元的に理解し、時間的経過の変化を説明できる。</li> </ul>						
【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】				
ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学		解剖学は図が描けるように、生理学は表やグラフが書けるように復習することが望ましい。				
回	授業概要	回	授業概要			
1	<p>【授業単元】 13.神経系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢神経系と末梢神経系についてと、ニューロンの基本的な構造と作用を説明ことができる。</li> <li>・神経伝導物質について説明ができる。</li> </ul>	9				
2	<p>【授業単元】 13.神経系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳を分類して、それぞれの名前と機能を説明できる。</li> </ul>	10				
3	<p>【授業単元】 13.神経系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脊髄の機能と構造を説明できる。</li> <li>・髓膜と脳脊髄液の産生とその機能を説明できる。</li> <li>・脊髄伝導路について説明できる。</li> </ul>	11				
4	<p>【授業単元】 13.神経系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交感神経と副交感神経の構造と機能を説明できる。</li> <li>・REM睡眠、ノンREM睡眠について述べることができる。</li> <li>・サーカディアンリズムを説明できる。</li> </ul>	12				
5	<p>【授業単元】 14.感覚系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼の構造と機能を説明できる。</li> <li>・外耳、中耳、内耳の構造と機能を説明できる。</li> <li>・静的および動的平衡覚を説明できる。</li> </ul>	13				
6	<p>【授業単元】 14.感覚系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嗅覚と味覚の受容器を機能を説明できる。</li> <li>・皮膚感覚の受容器を挙げることができる。</li> </ul>	14				
7	<p>【授業単元】 15.免疫系</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獲得免疫系と自然免疫系について説明できる。</li> <li>・感染症に対する免疫系の細胞の反応について説明できる。</li> <li>・アレルギーについて説明できる。</li> </ul>	15				
8	<p>【授業単元】 修了認定試験、解説</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学、生理学の用語を記憶し、神経系・感覚器系の名称、構造と機能を理解し、免疫系の機序を理解する。</li> </ul>		<p>【評価について】</p> <p>評価は、筆記試験で行う。授業内で確認した知識の理解、定着度を確認する。</p> <p>評価は学則規定に準ずる。</p>			
【特記事項】						

科目名 (英)	解剖生理学III (Anatomy and physiology III)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	高篠 智
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	15時間(1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 1時限
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
解剖学・法医学を専門とする講師が教授する。解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ人体の構造について解剖実習で確認する。その解剖実習前講義として、看護師になる学生として、解剖実習で確認すべきである臓器についてポイントを学ぶ。生命維持に最も大切な心臓と血管系・呼吸器系の構造、栄養を吸収する消化器系の構造、泌尿器系・生殖器系、そしてそれらを統括する中枢神経系についての基本を学ぶ。							
【到達目標】							
解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ人体の構造について、解剖実習で確認して、さらに深める事で、人体について興味を持ち、自己学習への意欲向上を目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
特になし				解剖実習			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】心臓の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 心臓の構造を理解する。脳出血などで重要な動脈や注射や採血にしようする皮靜脈の構造を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】頭頸部、気道、肺の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 気管内挿管で大切な頭頸部の構造や気道と肺の構造を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】消化器系の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 消化器系の構造を理解する。肝臓や門脈の構造を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】泌尿器・生殖器の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 導尿に必要な泌尿器・生殖器の構造を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】中枢神経系の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 中枢神経系(脳・脊髄)の構造を理解する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】血液 【授業形態】演習 【到達目標】 心臓を見て血液の流れを確認する。ウィリス動脈輪・皮静脈を確認する。頭頸部の矢状断面・気道・肺を見て空気の流れを確認する。消化器系を見て食物の流れを確認する。肝臓を見て門脈系を確認する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】尿 【授業形態】演習 【到達目標】 泌尿器系を見て尿の流れを確認する。生殖器系を見て男女の違いを確認する。また、導尿について理解する。中枢神経系(脳・脊髄)を見て脳の区分や重さを確認する。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 上記の範囲で試験を行う。			【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	形態機能学 (Anatomy and physiology )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	藤田 雅美			
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期			
学科・専攻	看護学科									
【授業の学習内容と心構え】										
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。本講義では日常生活行動の生理学的变化を学ぶ。そのため先行して学習する解剖生理学Ⅰ・Ⅱでの恒常性の維持、骨・筋肉、循環器、呼吸器、消化器、泌尿器の構造と機能の基礎知識を深めていくことが必要である。また、データを基に分析・解釈するため、データの採取および取り扱い方法とともに倫理的配慮も理解し専門職としての姿勢も学習していく。データ結果から考察を行い、発表により学習内容を共有していく。 ※グループで実施するため、演習内容はグループにより日程と内容が異なる。										
【到達目標】										
データ結果の分析と考察により、「生きている人」の状態をとらえて必要な看護援助を見出していく。また、演習を通して専門職としての姿勢・態度などの役割を認識していく。、プレゼンテーションでは図表等の作成を行い、他者にわかりやすく伝えるための方法を理解する。										
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシンググラフィカ解剖生理学 看護形態機能学				【授業外における学習】 解剖生理学の復習と知識の確認 データの入力、分析方法						
回	授業概要			回	授業概要					
1	【授業単元】形態機能学とは 【授業形態】講義 【到達目標】 生きている人として「息をする、食べる、トイレに行く、見る・聞く・話す」 演習においてデータの意義と取得方法を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
2	【授業単元】恒常性の維持 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 内部環境を整えるための物質や流通を理解する。活動による循環の変化を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
3	【授業単元】「見る・聞く・話す」 【授業形態】演習 【到達目標】 「見る・聞く」マリオット盲点の確認、リンネテスト、耳栓を付けたウェーバーテストの実施、「話す」に必要な舌や口唇の制限をした体験から得られた結果を考察する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
4	【授業単元】「息をする」 【授業形態】演習 【到達目標】 ①脈拍・呼吸回数(SPO <sub>2</sub> )血圧、心電図について、条件下(安静時、全力ダッシュ後、息を止めて1分間止めたままのSPO <sub>2</sub> 等)の値を考察する。②スパイロを使用し、臥位・立位の結果を考察する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
5	【授業単元】「食べる」 【授業形態】演習 【到達目標】 ①食前(空腹時)、食後の指定された時間に血糖値の測定を行い、結果を考察する。(簡易血糖測定)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
6	【授業単元】「トイレに行く」 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①トイレ行為の使用筋肉の名称と運動。使用した関節の動きをシートにまとめて考察する。 ②演習日は指定された水分摂取とその後の尿意の時間、尿量・比重・糖・たんぱくを測定し、結果を考察する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
7	【授業単元】プレゼンテーション 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 PP(図表)などを用いて全グループが発表する。また、ディスカッションを行い、より良い看護を考える機会とする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】					
8	【授業単元】プレゼンテーション 【授業形態】 【到達目標】 意見交換及び形態機能学に関連した知識の深化を図る。			【評価について】 修了認定試験を実施し評価基準に沿って評価を行う。(レポート提出)						
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。										



科目名 (英)	臨床栄養学 ( Clinical nutrition )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	中村 雅美
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 5時限
学科・専攻	看護学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
管理栄養士として、現場経験豊富な講師が授業を担当する。人間の健康における栄養の摂取の意義と機能について内部環境や代謝の機能を基盤として理解し、ライフステージの各段階における食事摂取基準と栄養状態の判定を理解する。また健康障害と栄養療法について疾患系統別の食事療法を実際に学び、栄養管理に必要な知識とテクニックを習得する。 食べたもので身体はできていることを理解し、日々の食生活が体調と密接に関係することを自らも実践し、感じていく。1食の大切さや感謝の気持ちを深めることを心構えとして授業に臨む。							
【到達目標】							
食に関する情報が氾濫する中で、医療従事者には、正しい知識を持ち、何か健康のために本当によいのかを判断する能力が求められている。対象者のライフステージや健康段階に合わせて、栄養学の基礎知識を踏まえ、実際の対象者の現状把握をし、どのように応用していくのかを理解し実践できるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
臨床栄養学 疾病の成り立ち① メディカ出版 図解でわかる!からだにいい食事と栄養の教科書 永岡書店				献立作成、調理、ARコンテンツ			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 栄養摂取の意義 【授業形態】 講義 【到達目標】 健康・臨床栄養学 健康に生きるためには「何を」「いつ」「どのくらい」「どうやって」たべるかということを学ぶことが大切だということを理解する。 臨床栄養学を学ぶ意味と意義を理解する。	9	【授業単元】 疾患別の食事療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌疾患・代謝疾患 消化器系士一貫の食事療法、内分泌・代謝疾患の食事療法について理解し、説明できるようになる。				
2	【授業単元】 国の健康栄養政策 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養・栄養素 第4次食育推進計画、特定健診、特定保健指導、食育基本法、SDGsを理解し、国が掲げる目標や目指す方向性や様々な事例や取り組みを知る。	10	【授業単元】 疾患別の食事療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 循環器疾患・腎疾患 循環器系疾患の食事療法、腎疾患の食事療法について理解し、説明できるようになる。				
3	【授業単元】 臨床栄養学の基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養アセスメント・食事調査 臨床栄養学の意義と看護、栄養素の分類、5大栄養素、フィトケミカルと働きについて理解し、説明できるようになる。	11	【授業単元】 健康増進のための食事指導 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 健康教育の方法・評価 アレルギー対応や、緊急時の対応、対象者の現状把握をし課題をみつけて行動変容へ導くことができるようになる。食事指導の実践ができるようになる。				
4	【授業単元】 食品成分と食事摂取基準の活用 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 消費エネルギー・摂取エネルギー 食品成分を知り、食事摂取基準を活用できるようになる。栄養価計算、3食食品群、6つの基礎食品、4群点数法、糖尿病の食事療法、食品構成や献立作成に展開できるようになる。	12	【授業単元】 食生活改善のための食事指導 食育媒体づくり 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 食事指導・チームアプローチ 自助具、摂食障がいなど、対象者に合わせた栄養指導を考え、実践する。行動変容のための資料や媒体を作成する。				
5	【授業単元】 講義・演習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 世界の食文化・日本の食生活 血液検査結果の見方、食文化の多様性と日本の食生活の形成について理解し、現在の食生活や運動の特徴と問題点を説明できるようになる。	13	【授業単元】 食生活改善のための食事指導 食育媒体づくり 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 栄養食事指導技術・患者へのかかわり方 対象者に合わせた栄養指導を考え、実践する。行動変容のための資料や媒体を作成し、発表する。様々な手法を知り、理解し、実践できる力を養う。				
6	【授業単元】 ライフステージ別の栄養 【授業形態】 講義 【到達目標】 乳幼児期・思春期 妊娠期、授乳期、乳幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢の特徴や必要なエネルギーと栄養素について、理解し、食事バランスガイドを用いて説明できるようになる。	14	【授業単元】 今までのまとめ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 看護師国家試験問題を基礎に、今まで学んだことを振り返る。栄養学についての理解を深め、知識の定着をはかる。試験に向けて、知識を定着させる。				
7	【授業単元】 健常者の食事(基本献立を参考に) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 成人期・サルコペニアの予防 自分のために必要なエネルギーと栄養素を考え、献立作成をする。1日の献立を作成し、みんなで食べることを通して、食について感謝を深め、考えることができる。	15	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 間違えた問題を洗い出し、課題を把握し克服する。				
8	【授業単元】 療養生活と栄養 【授業形態】 講義 【到達目標】 検査食・嚥下困難食 検査のための食事、治療による回復を促すための食事について知り、栄養成分別のコントロール食や嚥下障害のあるひとのための食事について、説明できるようになる。		【評価方法について】 計画的・半定期試験(1回)。 筆記試験は、修了認定試験100点にて評価する。評価は学則に準ずる。				
【特記事項】							
7回目 お弁当持参(お料理カード) 10回目 塩分調整お弁当をみんなで食べる							

科目名 (英)	臨床薬理学 I (Clinical pharmacology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	渡邊 隆
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
病院や薬局において薬剤師として調剤、服薬指導等を行い、薬物治療に従事してきた教員が、臨床においてよく遭遇する薬物についてその作用機序、副作用を理解するための授業を行う。薬理学は薬物とその標的を暗記するだけの学問ではなく、その理論的背景をよく理解することが重要である。看護師として臨床現場に出たときに役立つ知識であるため、学生時代の暗記科目という位置づけが強いが、できるだけ苦手意識を持たないよう講義していくつもりである。							
【到達目標】							
臨床で用いられる代表的な医薬品の法的規制、作用機序、副作用について学び、薬物の適正使用や安全管理等看護業務を行う上での注意点についても理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシンググラフィカ:臨床薬理学				授業で扱った医薬品についてその作用機序、副作用、看護における注意点等をよく復習しておくことが望ましい。			
回	授業概要	回	授業概要				
1 10月7日	【授業単元】薬物の法的根拠とその取扱い 【授業形態】講義 【到達目標】 薬機法における医薬品の定義、毒薬、劇薬の定義、その保管方法を説明できる。 医薬品の分類や剤型について例示し、その特徴を説明できる。	9 11月4日	【授業単元】調剤実習 その1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 当校の調剤実習室を使用し実際に調剤を行う。処方の読み方、分包の仕方、自動分包機を使ってみる。				
2 10月7日	【授業単元】医薬品の作用原理とその影響 【授業形態】講義 【到達目標】 代表的な薬物の作用点について例挙し、そのメカニズムを説明できる。 薬物の生体内運命(吸収・分布・代謝・排泄)について概説できる。	10 11月4日	【授業単元】調剤実習 その2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 当校の調剤実習室を使用し実際に調剤を行う。処方の読み方、分包の仕方、自動分包機を使ってみる。				
3 10月14日	【授業単元】医薬品の適正使用・ライフサイクルと薬 【授業形態】講義 【到達目標】 投与方法とその特徴を例挙できる。ライフサイクルに合わせた薬の投与法や服用時点について説明できる。 医薬品相互作用について例挙し、そのメカニズムを説明できる。 薬効の個人差に影響する因子について説明できる。	11 11月11日	【授業単元】抗感染症薬、消毒薬 【授業形態】講義 【到達目標】 抗感染症薬(細菌、真菌、ウイルス、その他微生物に対する薬物)についてその作用機序、副作用、看護業務上の注意点を説明できる。 消毒薬の作用原理とその適応について説明できる。				
4 10月14日	【授業単元】医薬品の有害作用 【授業形態】講義 【到達目標】 医薬品の薬効分類に対応する主な副作用(有害事象)について例挙し、そのメカニズムを説明できる。	12 11月11日	【授業単元】抗炎症薬、抗アレルギー薬 【授業形態】講義 【到達目標】 抗炎症薬、抗アレルギー薬についてその作用機序、副作用、看護業務上の注意点を説明できる。				
5 10月21日	【授業単元】中枢神経系作用薬 【授業形態】講義 【到達目標】 中枢神経系に対し作用する薬物の作用機序、副作用、看護業務上の注意点について説明できる。	13 11月18日	【授業単元】抗がん薬・麻薬 【授業形態】講義 【到達目標】 抗がん薬の作用機序、副作用、看護業務上の注意点について説明できる。 臨床で用いる麻薬について、その作用点、使用方法、有害事象について説明できる。				
6 10月21日	【授業単元】循環・血液系作用薬 【授業形態】講義 【到達目標】 循環器系・血液系に対し作用する薬物の作用機序、副作用、看護業務上の注意点について説明できる。	14 11月18日	【授業単元】眼科用薬、皮膚科用薬、救急時に使用される薬物 【授業形態】講義 【到達目標】 眼科、皮膚科において汎用される薬物の種類とその作用機序、剤型、適応上の注意点について説明できる。 救急時に使用される薬物について適応と作用機序を説明できる。				
7 10月28日	【授業単元】呼吸器系作用薬 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸器系に対し作用する薬物の作用機序、副作用、看護業務上の注意点について説明できる。	15	【授業単元】修了認定試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 医薬品に関する法律、薬理学の基礎知識、医薬品各論から出題する。				
8 10月28日	【授業単元】消化器系作用薬 【授業形態】講義 【到達目標】 消化器系に対し作用する薬物の作用機序、副作用、看護業務上の注意点について説明できる。		【評価について】 ●評価方法：毎週の小テストおよび修了認定試験によって評価する。 評価の配分：小テスト40点 修了認定試験60点 によって評価する				
【特記事項】							



科目名 (英)	病原微生物学 (Medical Microbiology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中村 真理子・金城 雄樹 田島 亜紀子・林崎 浩史	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 4時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】								
医学・看護学分野で微生物学を中心とした学生教育に取り組んでいる経験豊富な教員が担当する。将来、看護師として臨床業務を行う上で、感染症を引き起こす微生物の知識は必須である。「病原微生物学」では、臨床上、重要な感染症の理解を深めるために、原因となる「病原微生物」と宿主(ヒト)の関係」を学習する。								
【到達目標】								
臨床上問題となる感染症を引き起こす病原微生物の特徴や感染症の病態、検査、治療、予防および対策について理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
ナーシング・グラフィカ 「臨床微生物・医動物」 MCメディア出版				授業で習得した知識をもとに、身の回りの出来事やメディアなどの情報について、感染症を意識して考えるようになってほしい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】 臨床微生物・医動物、呼吸器感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨床微生物・医動物の種類と特徴について説明できる 呼吸器感染症の分類、主な原因微生物とその感染症について理解できる	9	【授業単元】 感染防御機構の基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 自然免疫と獲得免疫の概要を説明できる 細菌やウイルスに対する感染防御機構を体液性免疫と細胞性免疫に分けて理解できる					
2	【授業単元】 結核、消化器系感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 結核の特徴や結核菌の特徴を説明できる 結核の検査や治療を理解できる 腸管感染症・食中毒と起因菌について説明できる	10	【授業単元】 ワクチン接種と血清療法、小児の予防接種 【授業形態】 講義 【到達目標】 ワクチン接種の目的や能動免疫と受動免疫の違いについて説明できる 小児の予防接種について理解できる					
3	【授業単元】 肝炎、性感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 肝炎ウイルスの種類、肝炎の病態と経過を説明できる 主な性感染症と臨床微生物を理解できる	11	【授業単元】 減菌と消毒 【授業形態】 講義 【到達目標】 主な滅菌方法の特徴について理解できる 主な消毒法や消毒薬の使用対象と特徴について説明できる					
4	【授業単元】 皮膚のウイルス・リッキチア感染症、脳・神経系感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 発疹を生じるウイルス感染症とリッキチア感染症を理解できる 髄膜炎・脳炎の症状および主な原因微生物について説明できる	12	【授業単元】 尿路感染症、高齢者の感染、日和見感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 尿路感染症の分類と起因菌について理解できる 主に高齢者で問題となる感染症について理解できる 日和見感染症について理解し、主な原因微生物を説明できる					
5	【授業単元】 人獣共通感染症、寄生虫感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 人獣共通感染症という病気および原因微生物について理解できる マラリアなどの主な寄生虫感染症を説明できる	13	【授業単元】 手術創・外傷と感染症、感染症と臨床微生物・医動物 【授業形態】 講義 【到達目標】 手術部位感染の主な原因微生物を説明できる 内毒素や外毒素を産生する細菌の感染症を理解できる 感染症の主な分類、感染経路、感染予防の基本を理解できる					
6	【授業単元】 母子感染症、移植患者と感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 母子感染する主な臨床微生物の種類、感染経路および児への影響を理解できる 移植後に問題になる感染症を説明できる	14	【授業単元】 血管内カテーテル関連血流感染症、薬剤耐性菌 【授業形態】 講義 【到達目標】 血管内カテーテル関連血流感染症をおこす主な微生物の種類、 侵入経路や予防法について説明できる 薬剤耐性菌の種類、薬剤耐性の機序や対策を理解できる					
7	【授業単元】 皮膚・粘膜の感染症、小児の感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 皮膚・粘膜に化膿性炎症を引き起こす主な微生物や院内感染におけるMRSAの重要性を理解できる 小児の主な感染症を説明できる	15	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 病原微生物の特徴や感染症の病態、検査、治療、予防および対策について理解できている					
8	【授業単元】 感染症の治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 感染症の治療の概要を説明できる 化学療法薬の種類、作用・副作用、投与法を理解できる		【評価方法について】 評価は授業の態度評価及び修了認定試験(筆記試験)で行う。授業の態度は授業における積極的な参加と学習姿勢を評価する。筆記試験では授業内で確認した専門的な知識の理解及び知識の定着を確認する。授業の態度(30点)、試験(70点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】								

科目名 (英)	病態学Ⅰ(臨床検査) (Clinical examination)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	歳川 伸一			
		授業形態	講義	総時間 (単位)	10時間	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3時限			
学科・専攻	看護学科									
【授業の学習内容と心構え】										
大学病院の検査部で長きにわたり臨床検査技師として勤務する講師が教授する。看護師として臨床検査への関わり方を理解する。										
【到達目標】										
検体検査種類を理解し、結果の解釈と病態の関連性を構築する。また、検体の採取方法や保存・提出方法も理解する。 生理機能検査を中心とした生体検査を理解し、患者にストレスの無い検査案内ができるようにする。 検査全般について、患者からの問い合わせに対して、適切な回答ができるようにする。										
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】						
回 授業概要				回	授業概要					
1	【授業単元】 検査総論・一般検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.臨床検査を通して、看護師としての関わり方を理解できる。 2.分析方法の原理の理解できる。 3.測定に影響を及ぼす因子を理解できる。 4.検体の採取方法・保存方法を理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 血液検査・輸血検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.分析方法の原理が理解できる。 2.測定に影響を及ぼす因子を理解できる。 3.検体の採取方法・保存方法を理解できる。 4.検査データをもとに、結果解釈と他検査との関りを理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 微生物検査・病理検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.分析方法の原理が理解できる。 2.測定に影響を及ぼす因子を理解できる。 3.検体の採取方法・保存方法を理解できる。 4.検査データをもとに、結果解釈と他検査との関りを理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 臨床化学・免疫血清検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.分析方法の原理が理解できる。 2.測定に影響を及ぼす因子を理解できる。 3.検体の採取方法・保存方法を理解できる。 4.検査データをもとに、結果解釈と他検査との関りを理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 生理機能検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.分析方法の原理が理解できる。 2.測定に影響を及ぼす因子を理解できる。 3.検体の採取方法・保存方法を理解できる。 4.検査データをもとに、結果解釈と他検査との関りを理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
試験	【授業単元】 修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
【評価について】 筆記試験にて評価する。										
【特記事項】										

科目名 (英)	病態学Ⅰ(放射線診療) 看護学科	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	小野 孝二
学科・専攻		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	10時間	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 1時限

【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】

診療放射線技師免許、第2種放射線取扱主任者免状、エックス線作業主任者の資格を有し、病院、保健所、県庁、厚生労働省、大学教員の経験を有する教員が授業を担当する。臨床現場で勤務する看護師への放射線防護のための基礎知識は講義にて、実際の防護については演習を通して学んで行く。

【到達目標】

放射線の基本と影響について理解し、病態の理解に役立てる。放射線診断・治療として放射線医学を学び病態理解に役立てる。

【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】		
回	授業概要	回	授業概要	
1	【授業単元】放射線の基礎知識 【授業形態】講義 【到達目標】放射線、放射線量の単位、単位間の関係、自然放射線について、放射線の分類と実体、X線の原理、散乱線を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
2	【授業単元】放射線の人体影響 【授業形態】講義 【到達目標】外部被ばくと内部被ばく、散乱線、しきい線量、がん・白血病・遺伝性影響を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
3	【授業単元】放射線防護のための演習 【授業形態】演習 【到達目標】自然放射線の測定、アルファ線の観察、線源を用いた距離・遮蔽の測定実験、移動型X線撮影による患者の胸部被ばく線量と散乱線(二次X線)の測定実験		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
4	【授業単元】放射線の医療安全 【授業形態】講義 【到達目標】被ばくの概念、放射線防護の原則、被ばく管理について、医療安全と放射線防護、医療現場における放射線診療時の留意点、国家試験過去問を元に知識の最強化		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
試験	【授業単元】修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	【評価方法について】 学則の評価方法に準ずる		
【特記事項】				

科目名 (英)	病態学 I (麻酔学) ( Anesthesiology )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	境野 高資
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	10時間	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1-3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
麻酔科医・救急医・小児科医として長きに渡り臨床に携わってきた麻酔科標榜医資格を持つ教員が、社会に貢献できる看護師を養成するため麻酔学の専門的な知識を習得するための講義を行う。看護師として、あらゆる周術期看護と急変対応に対応できるようになるため、気道・呼吸・循環に関する解剖生理学の復習から麻酔科学の専門的内容まで履修していく。必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には事前に教科書の該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】							
麻酔科学に必要な解剖生理学の知識をより実践的な周術期看護につなげよう理解する。手術麻酔の目的・方法・合併症を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
医歯薬出版k部会社 講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版				事前に教科書を熟読してから講義に臨むこと。その他の予習は不要である。講義後は小テストを行い到達度により個別にレポート課題・補講等を課す。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 11/21 全身麻酔と手術看護 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 全身麻酔の流れを理解し周術期管理を実践できる看護師を目指す。術前・術中・術後管理の基礎を理解する。麻酔の3要素と、麻酔導入・維持・覚醒の流れを理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】 11/21 気道確保と急変時の対応 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 全身麻酔に必須となる気道確保について、その様々な方略を理解し、緊急時対応の実践と高度気道確保の介助が実践できるようになる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】 11/21 硬膜外麻酔・脊椎麻酔・局所麻酔 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 硬膜外麻酔、脊椎麻酔に必要な解剖生理学とその麻酔法を理解する。局所麻酔を学ぶ。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】 12/5 手術侵襲と輸液管理、術後鎮痛、生命維持装置 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 周術期の侵襲と輸液管理について理解し、適切な手術看護・介助を実践できるようにする。イン・アウトの水分バランスとサードスペースについて理解する。術後鎮痛(ペインコントロール)を理解する。手術室における生命維持装置について学ぶ。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】 12/5 気道管理物品と生命維持装置に触れる 【授業形態】 演習 【到達目標】 気道確保物品と手術室における生命維持装置に実際に触れる経験を積んで理解を深める。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
試験	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【評価方法について】 出席率、授業態度、各講義毎の小テストと、個別に課したレポート課題や小テストに加え、修了認定試験により成績を評価する。				
【特記事項】							
※ 講義前に教科書の該当箇所を必ず熟読してくること。							

科目名 (英)	病態学III(呼吸器) (Respiratory)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	10時間	開講区分	後期
学科・専攻	看護学科					曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】							
呼吸器疾患診療に携わってきた経験を持つ教員が、呼吸器疾患の患者さんの看護・ケアに必要な解剖・生理、疾患の徴候と病状、検査方法、その病態や治療法などに関して授業を行う。							
【到達目標】							
主な呼吸器疾患に関して、その原因、症状、診断、治療法などに対する理解を深め、患者さんの看護、ケアのための基本的事項を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
『疾患と看護①:呼吸器』(ナーシング・グラフィカEX)				授業で習得した知識を確実にするための復習を心がけてほしい。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】呼吸器系の解剖と生理・徴候・検査 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸器系の解剖と主な生理機能についての知識を得る。 主な呼吸器疾患の徴候・症状について理解する。 主要な検査方法について理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】呼吸器疾患(1) 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸器感染症(かぜ症候群、インフルエンザ、肺炎、肺結核、肺真菌症など)について症状・徴候、検査所見、診断、治療に関する知識を習得する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】呼吸器疾患(2) 【授業形態】講義 【到達目標】 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺疾患、じん肺、睡眠時無呼吸症候群(SAS)、呼吸不全などの病態、治療、ケアについて理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】呼吸器疾患(3) 【授業形態】講義 【到達目標】 肺がん(原発性、転移性)、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、気胸などの疾患についての原因、診断法、治療の現状について理解する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】呼吸器疾患(4) 【授業形態】講義 【到達目標】 新型コロナウィルス感染症(COVID-19)の現状について理解を深める。禁煙指導の重要性及び実際について理解する。また、呼吸器疾患の医療・看護にあたって医療者が持つべき心構えを把握する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
試験	【授業単元】修了認定試験(1時間)、解説 【授業形態】 【到達目標】 呼吸器系疾患をもつ患者さんの看護に必要な診断、病態、治療などに関して理解できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【評価について】 評価は、筆記試験で行う。講義した知識の理解、定着度を確認する。				
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学Ⅲ(循環器) (Cardiovascular)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義	総時間 (単位)	10時間	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と心構え】							

循環器の仕組みを理解した上で、ポンプ機能の障害、心内膜などの心臓の異常、冠血流の障害、刺激伝道系の障害、肺動脈圧の上昇、末梢性の循環障害など、その諸機能が障害を起こしたときにどのような異常や体内での変化を理解し、看護の現場で活かせる知識を身につけていきます。

#### 【到達目標】

解剖生理学で学んだ知識を基に、循環機能障害を起こす代表的な疾患について、原因、病態生理、特徴的な症状、診断、治療、看護で留意すべき内容を理解することを目標達成とします。

【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】					
ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護①呼吸機能障害/循環機能障害		解剖生理学で学んだ知識を活用していくために復習して臨む。					
回	授業概要	回	授業概要				
1	<p>【授業単元】 循環器と循環機能障害</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>循環器の構造と機能、心筋障害、弁のしくみと機能障害について症状、検査、治療について説明することができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
2	<p>【授業単元】 心臓の形態異常</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>先天性心疾患など形態異常による症状、検査、主な治療について説明することができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
3	<p>【授業単元】 冠血流障害</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>冠血流障害(虚血性心疾患)を引き起こす、主な症状と検査、治療について説明することができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
4	<p>【授業単元】 肺動脈圧の上昇、血管の障害</p> <p>【授業形態】 講義</p> <p>【到達目標】</p> <p>肺動脈圧の上昇に伴う症状および、腹部大動脈瘤、動脈硬化症、下肢静脈瘤、深部動脈血栓、ショック状態に伴う症状、検査、治療について説明することができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
試験	<p>【授業単元】 試験、解説</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
	<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
	<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>				
	<p>【授業単元】</p> <p>【授業形態】</p> <p>【到達目標】</p>		<p>【評価について】</p> <p>学則の評価基準に準ずる</p>				
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学III(血液・造血器、免疫) (Hematopoiesis/immunity)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	北村 聖
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義	総時間 (単位)	10時間	開講区分 曜日・時間	後期
【授業の学習内容と構え】							
造血系と免疫系の仕組みを理解した上で、その諸機能が障害を起こした時にどのような異常が起こるのか、体内ではどのような形態・機能・代謝の変化が起こるのか、について看護の現場で活かせる知識として身につけられるよう、医師として、また看護学生を教えた経験のある立場として、一緒に勉強していきたいと思います。症例提示しながら看護の実際と関連付けながら学べるように試みます。							
【到達目標】							
解剖学と生理学で学んだ知識を基に、造血系・免疫系に見られる代表的な疾患について、その病因、病態生理、特徴的な症状、診断、治療方法、看護で留意すべき点、について説明できることを到達目標とします。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護③ 造血機能障害/免疫機能障害				必要に応じて参考図書などを紹介しますので、興味を持ったことについては自身でどんどん学修を深めてください。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 血液・造血器の構造と機能、免疫の仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液・造血器の構造と機能、免疫の仕組みについて説明することができる。	10	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】 造血機能障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液細胞(赤血球、白血球、血小板)の異常による疾患について説明することができる。 造血器腫瘍について説明できる。						
3	【授業単元】 免疫機能障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 自己免疫疾患、アレルギー性疾患、各種アレルギーや免疫不全について説明できる。						
4	【授業単元】 造血機能障害/免疫機能障害の看護 【授業形態】 講義 【到達目標】 造血機能障害、免疫機能障害の患者の症状や経過、日常生活を理解し、各患者の各ポイントに応じた看護について説明できる。						
5	【授業単元】 血液・造血器、免疫に関するTBL 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 血液・造血器、免疫に関して、グループで問題解決ができる。						
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 造血機能、免疫機能障害によって起こる疾患について、説明することができる。						
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】						
	【評価について】 総括的評価として定期試験を行う、定期試験はMCQ形式で100点満点とし、60点以上を合格とする。						
【特記事項】							
予習課題を提示し、その上で授業を行いますので、事前学修を十分行ってください。							

科目名 (英)	病態学IV(消化器) (Gastrointestinal Surgery)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	21時間	開講区分 曜日・時間	後期
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
外科学の基礎をよく理解し、基礎知識を得ることにより各疾患の治療、看護に於いて、経過を理解し相互に検討、早期にできる限り適切な対応、配慮的能力を得ること。お互いに協力して事象に対応できる心構えと能力を養うこと。							
【到達目標】							
外科学、特に消化器外科について基本的知識を獲得し、各疾患の病態を理解し、色々なバリエーションにおける対応力を(考え方理解することによる。)得ること。人それぞれの能力で、協力して対応し解釈できるように基礎より考え方理解できる能力を養う。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 授業を理解する上でわからなかった事を出来るだけ参考書等で理解すること			
回	授業概要	回	授業概要				
1, 2	【授業単元】外科総論 創傷治療 【授業形態】講義 【到達目標】 外論に進む上で、基礎知識も必要だが理解度を増すことにより各論において基礎知識を応用(ただ記憶するだけではなく)出来る能力を獲得する			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3, 4	【授業単元】食道癌 胃癌 【授業形態】講義 【到達目標】 病態、主な治療について理解、認識、記憶 合併症についても何故を含め理解、記憶することにより対応できる能力を養う			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5, 6, 7	【授業単元】小腸、大腸、肛門疾患 【授業形態】講義 【到達目標】 病態、主な治療について理解、認識、記憶 合併症についても何故を含め理解、記憶することにより対応できる能力を養う			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8, 9, 10	【授業単元】膵臓癌、肝癌、胆嚢癌、胆囊炎、胆石症 【授業形態】講義 【到達目標】 病態、主な治療について理解、認識、記憶 合併症についても何故を含め理解、記憶することにより対応できる能力を養う			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
試験	【授業単元】修了認定試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 テストによる理解度の把握 知識を固定すること、その知識より類推できる応用力を養うこと			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
	【授業単元】 【授業形態】  【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】  【到達目標】			
	【授業単元】 【授業形態】  【到達目標】			【授業単元】 【授業形態】  【到達目標】			
	【授業単元】 【授業形態】  【到達目標】			【評価について】 試験は筆記で行い、評価は学校の規定に準する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	病態学IV(内分泌・糖代謝)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	安藤 真広
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	10時間	開講区分 曜日・時間	後期
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
大学病院での研究・教育・臨床において内分泌疾患診療に携わってきた経験を持つ教員が、内分泌疾患の患者さんの看護・ケアに必要な疾患の徴候と病状、病態や治療法などに関して授業を行う。							
【到達目標】							
解剖学と生理学で学んだ知識を基に、内分泌・糖代謝系に見られる代表的な疾患について、その病因、病態生理、特徴的な症状、診断、治疗方法、看護で留意すべき点、について説明できることを到達目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護				必要に応じて参考図書などを紹介しますので、興味を持ったことについては自身でどんどん学修を深めてください。			
回	授業概要	回	授業概要				
1・2	【授業単元】 内分泌の分類・ホルモン、 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌の分類・ホルモン 下垂体の主な疾患(腫瘍)		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3・4	【授業単元】 副腎、すい臓の疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 副腎の構造とホルモン、副腎の主な疾患(クッシング症候群、原発性アルドステロン症)、糖尿病、高血糖による意識障害、脂質異常症		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
試験	【授業単元】 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【評価について】 総括的評価として試験はレポートで行う。100点満点とし、60点以上を合格とする。				
【特記事項】							

科目名 (英) 学科・専攻	医療と倫理 (Medical care and ethic)	必修選択 授業形態	必修 講義	年次 総時間(単位)	1年 10時間(1)	担当教員 開講区分 曜日・時間	山西 敏朗					
	看護学科						前期					
【授業の学習内容と心構え】												
耳鼻咽喉科クリニック院長として診療にあたっている医師が教授する。医療とはそして医療倫理とは何か。一医療人としてそして一社会人としての心構えを身につける。												
【到達目標】												
医療人は特別なのか?近年、一般社会人としての常識が欠落している看護師が多くみられる。医療で最も大切なこと、それはチームワークである。そして社会人として看護師として心がけておくべきことは『All For One,One For All.』の精神である。その結果として、よりよい医療、より良い看護が初めて提供されるのである。このことを心に刻めるように、医療とは何か?そして医療倫理とは?を考えていきたい。												
【授業外における学習】 必要に応じてクリニック見学実習				【授業概要】								
回	授業概要			回	授業概要							
	【授業単元】 医療と看護の原点 【授業形態】 講義 【到達目標】 1 健康と命について考え、自分の意見や考えが言えるようにしたい。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
	【授業単元】 医療の歴史と変遷 【授業形態】 講義 【到達目標】 2 医療の歴史と変遷につき学ぶ。さらに新型コロナウイルス感染のパンデミック前後の医療界の変化につき知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
	【授業単元】 医療の進歩と問題点 【授業形態】 講義 【到達目標】 医療の進歩とその問題点に迫る。 3				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
	【授業単元】 医療人として 【授業形態】 講義 【到達目標】 4 医療人である前に一社会人であることを自覚する。社会人として恥ずかしくない自己の確立を目指す。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
	試験 【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 講義を通しての学びの確認。自己目標への課題を自覚する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】							
【評価について】				【特記事項】								

科目名 (英)	医療と倫理	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	須田 英明
	(Medical care and ethic)						前期
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義	総時間(単位)	6時間	開講区分	曜日・時間
【授業の学習内容と心構え】							
学校長であり、長きにわたり歯科医師として臨床および医学教育に携わってきた講師が教授する。この授業では、医学・医療が過去から現在に至るまで、どのように発展してきたかを概観し、現代医療の特徴と課題について学習します。併せて、病気がどのように予防・診断・治療されるべきかについて理解を深め、チーム医療に携わる看護師の果たす役割と考え方について学びます。看護師としての基盤を構築する上で必須の授業なので、できるかぎり欠席や早退、遅刻がないようにしてください。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日までの医学・医療の歩みを時代を追って概説できる。</li> <li>・現代医療の特徴と課題を列挙して説明できる。</li> <li>・チーム医療における看護師のあり方と役割を述べることができる。</li> <li>・病気の予防、診断、治療のあり方を述べることができる。</li> </ul>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
授業概要				回	授業概要		
1	【授業単元】 医学・医療の歩み(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・医学の起源を概説できる。 ・古代の医学の特徴を説明できる。 ・中世の医学の特徴を説明できる。	9	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 医学・医療の歩み(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・近代化医学の概要を説明できる。 ・近代化医学の発展を年代を追って説明できる。 ・今後の医学・医療の方向性を述べることができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】 医療の本質と実践 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・医学と医療の異同を説明できる。 ・現代医療の本質を概説できる。 ・医療の実践について自身の考えを述べることができる。	10	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 ・医学・医療とその発展を概説できる。 ・病気の予防・診断・治療のあり方を説明できる。 ・現代医療の特徴と課題を説明できる。 ・チーム医療における看護師の役割を述べることができる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 ・医学・医療とその発展を概説できる。 ・病気の予防・診断・治療のあり方を説明できる。 ・現代医療の特徴と課題を説明できる。 ・チーム医療における看護師の役割を述べることができる。	11	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
試験	【授業単元】 試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 ・医学・医療とその発展を概説できる。 ・病気の予防・診断・治療のあり方を説明できる。 ・現代医療の特徴と課題を説明できる。 ・チーム医療における看護師の役割を述べることができる。	12	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
13	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	14	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
15	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		【評価について】 試験は筆記で行い学則に従い評価を行う。				
	【特記事項】						



科目名 (英)	生活援助論 I (活動・休息) (activity・rest )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	江川 ゆき
		授業形態	講義	総時間(単位)	12時間(1)	開講区分	前期 曜日・時間
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。活動・休息の意義及び活動・休息に必要な看護援助を理解していく。看護師側、患者側ともに動く授業となる。ボディメカニクスをふまえて、力学を基本に事故防止を第一に考え、体重移動や体の使い方を理解していく。ストレッチャー・車椅子など器具の名称や点検などの確実な操作など、看護に必要な基礎的で重要な内容が含まれている。							
【到達目標】							
活動・休息の意義を知ることにより、適度な運動による身体機能の維持、休息による体力の回復や自然治癒力の増進、身体の問題などから動ないことへの弊害から何が発生するか。また、患者のみならず作業域・動作経済性、看護師のボディメカニクスと移乗・移動方法では物理学をもとに事故防止の観点から行動することを習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ基礎看護学 実習で使える看護技術アドバンス インターメディカ				演習前には事前学習を十分にして参加する。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 移動・移乗 【授業形態】 講義 【到達目標】 車椅子、ストレッチャー、歩行介助、補助具の各名称と使用方法が理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 移動・移乗・移送の基本操作 【授業形態】 講義 【到達目標】 体位変換、車椅子移乗、ストレッチャー移送、座位から立位、歩行訓練(杖使用)が理解できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 移動・移乗・移送① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 座位から立位、歩行訓練(杖使用)が実施できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 移動・移乗・移送② 【授業形態】 演習 【到達目標】 体位変換、車いす移乗、ストレッチャー移送、座位から立位、歩行訓練(杖使用)が実施できる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 移動・移乗・移送③ 【授業形態】 演習 【到達目標】 体位変換、車いす移乗、ストレッチャー移送、座位から立位、歩行訓練(杖使用)が実施できる。 レポート提出 20点			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 休息と睡眠 【授業形態】 講義 【到達目標】 休息・睡眠を促す援助方法が理解できる。状況にあった適切な活動を促す援助方法を理解できる。 小テスト 20点			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 評価 生活援助論 I -①環境と同日に試験とする。 【授業形態】 【到達目標】 修了認定試験 (筆記試験)60点			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】 小テスト20点、演習事前・事後レポート20点、修了認定試験60点(知識・思考・主体的態度を含む)を実施し評価基準に沿って行う。 最終評価は生活援助論 I -①環境と統合し算出する。			
【特記事項】				課題を実施して参加することを原則とする。予習・復習は勿論のこと、授業に主体的に取り組むこと。			

科目名 (英)	生活援助論 I (環境) (activity・rest )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	板石 厚江
学科・専攻	看護学科	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	18時間 (1)	開講区分	前期
【授業の学習内容と心構え】							
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。人間にとての快適な環境とは何か、自身の生活環境と照らし合わせて考える機会をつくる。療養環境について快適性、安全性の観点からアセスメントするポイントと、環境整備の方法について説明する。人間にとての環境整備を整えるための知識と援助方法を習得する。また、健康が障害された人の副病意欲を高めるための環境について学ぶ。							
【到達目標】							
人間にとての環境の意味を理解し健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。また、健康が障害された人の自立度に応じて、環境に関するニーズを充足する方法をアセスメントできる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ基礎看護学				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にして参加する。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】療養環境の意義・安全な療養環境 【授業形態】講義 【到達目標】 1 生活の場としての療養環境が理解できる。望ましい療養環境が理解できる。使用しているリネンの種類と基本シーツの考え方方が理解できる。(ポイントデモの実施) 療養環境の危険因子と安全な療養環境を考えることができる。	9	【授業単元】生活援助論 I のまとめ 修了認定試験 【授業形態】 【到達目標】 修了認定試験をふまえて、知識の確認を行っていく				
2	【授業単元】ベッドメーキングの方法 【授業形態】講義 【到達目標】 ベッドメーキングが理解できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】ベッドメーキングの実際 【授業形態】演習 【到達目標】 基本シーツの畳み方、基本のベッド作成ができる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】臥床患者のベッドメーキングの方法 【授業形態】講義 【到達目標】 臥床患者のシーツを体動少なく、安全に配慮して行う方法がわかる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】臥床患者のベッドメーキングの実際 【授業形態】演習 【到達目標】 臥床患者のシーツを体動少なく、安全に配慮して行うことができるよう実施する。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】臥床患者のベッドメーキングの実際 【授業形態】演習 【到達目標】 臥床患者のシーツを体動少なく、安全に配慮して行う方法がわかる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】環境整備 【授業形態】講義 【到達目標】 療養環境整備が理解できる		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】環境整備 【授業形態】演習 【到達目標】 修了認定試験、状況に応じた環境整備ができる。	【評価について】 小テスト20点 課題レポート10 修了認定試験70点					
【特記事項】							

科目名 (英)	生活援助論Ⅱ(食事) ( meals+excretion )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員 湯田 浩子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	14時間	
学科・専攻	看護学科					開講区分 曜日・時間 前期
【授業の学習内容と心構え】						
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。対象の健康状態に応じた食事の意義と援助の必要性と方法を理解し食生活を整えるための技術を習得する						
【到達目標】						
食事援助の基礎知識、対象に応じた食事援助方法が理解できる						
【使用教科書・教材・参考書】		【授業外における学習】				
ナーシング・グラフィカ基礎看護学		演習前には事前学習を十分にして参加する。				
回	授業概要	回	授業概要			
1	【授業単元】食事の意義 【授業形態】講義 【到達目標】 意義(生理的・心理的・社会的)、消化機能、食欲の神経中枢、食欲の変化(影響因子)、					
2	【授業単元】食事の援助に必要なアセスメント 【授業形態】講義 【到達目標】 ・食事・栄養状態、摂食嚥下能力、摂食行動のアセスメント ・病院の食事・治療食について ・非経口的栄養療法					
3	【授業単元】食事の援助 【授業形態】講義 【到達目標】 食事に適した環境づくり。食事援助の手順が理解できる。嚥下の評価方法、嚥下訓練の実際、義歯の取り扱いを理解する。					
4	【授業単元】LTD話し合い学習法 【授業形態】講義 【到達目標】 ・食事にまつわる課題文を読み解き、討論することで読解力を養う					
5	【授業単元】食事の援助 【授業形態】演習 【到達目標】 経口摂取が可能な患者の食事の準備、食事介助ができる。(氏名の確認、食事セッティング、状況にあった食事介助、口腔ケア、摂取量の確認と後片付け、義歯の取り扱い)					
6	【授業単元】食事の援助 【授業形態】演習 【到達目標】 食事準備から口腔ケアまで一連の介助ができる					
7	【授業単元】食事の知識の確認 【授業形態】修了認定試験 【到達目標】 修了認定試験をふまえて振り返りと確認をしていく。					
		【評価について】				
		授業態度、GW、演習の参加姿勢 30点、科目終了後、筆記試験70点。修了認定評価基準に沿って評価する。				
【特記事項】						
課題を実施して参加することを原則とする。						

科目名 (英)	生活援助論Ⅱ(排泄) ( meals・excretion )	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	鶴淵 礼子	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	16時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期・後期	
【授業の学習内容と心構え】								
看護師、助産師の資格を持ち、臨床経験のある教員が授業を担当する。排泄は生命維持には欠かせない重要な行為である。しかし疾病や傷害などにより正常な排泄機能が逸脱した場合、排泄困難は生命の危機が生じることになる。また身体的障害によって排泄行動が自力で不可能になることは人間の尊厳に関わることである。本講義では排泄機能に障害を抱える対象の気持ちによりそい、羞恥心や自尊心に配慮した排泄援助について講義・演習をとおし理解できるようにする。								
【到達目標】								
食事・排泄の基本的知識・技術・態度を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
ナーシング・グラフィカ基礎看護学				演習前には事前学習を十分にして参加する。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】 排泄の意義 【授業形態】 講義  【到達目標】 排泄の意義が理解できる。腎機能と消化機能の役割と、排泄のメカニズムについて理解する。プライバシーや寒冷への配慮を理解する。	試験	【授業単元】 排泄のまとめと知識の確認 【授業形態】 修了認定試験・講義  【到達目標】 修了認定試験をふまえて振り返りと確認をしていく。					
2	【授業単元】 排泄のアセスメント 【授業形態】 講義  【到達目標】 排泄の生理的・心理社会的アセスメントができる。尿や便の性状や、筋肉、関節、神経、意識状態、疼痛などによる排泄行動が困難な状態を理解する。							
3	【授業単元】 排泄に必要な援助 【授業形態】 講義  【到達目標】 排泄の援助、排泄障害時の看護を理解する 腹部状態の観察と腹部マッサージ、腰背部の温罨法、薬物による援助、摘便、差し込み便器の種類と適切な援助方法や、オムツの使用方法と排泄後の陰部洗浄、皮膚の保溝などの援助について理解する。							
4	【授業単元】 排泄 【授業形態】 演習  【到達目標】 尿器・便器の取り扱い。便器(オムツ)の使用による陰部洗浄実施時の体位や方法が理解できる。							
5	【授業単元】 排泄行動の支援 【授業形態】 講義  【到達目標】 排泄行動が困難な患者の援助(歩行介助など)や、洋式トイレにおける排泄行動(手すり等の使用)援助方法などについて理解する。ポータブルトイレの使用方法と留意点を理解できる。							
6	【授業単元】 排泄困難時の援助 【授業形態】 演習  【到達目標】 導尿、膀胱留置カテーテルの適応を理解する。 一次的導尿の適応、持続留置カテーテルの適応、解剖学的位置と管理方法について理解する。(演習は老年看護学方法論Ⅱで実施する。)							
7	【授業単元】 排泄介助の実際 【授業形態】 演習  【到達目標】 様々な事例を通して排泄の一連の援助ができる。 (ポータブルトイレへの移乗介助、便器・尿器の取り扱い、摘便、便器・オムツを使用した陰部洗浄など)							
8	【授業単元】 排泄介助の実際 【授業形態】 演習  【到達目標】 様々な事例を通して排泄の一連の援助ができる。 (ポータブルトイレへの移乗介助、便器・尿器の取り扱い、摘便、便器・オムツを使用した陰部洗浄など)		【評価について】	科目終了後、筆記試験100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				
〔特記事項〕				課題を実施して参加することを原則とする。				

科目名 (英)	生活援助論Ⅲ(清潔・衣生活) ( Cleanliness and clothing life )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	依田 康世	
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 2時限	
【授業の学習内容と心構え】								
看護師として臨床経験があり、他の看護学校での教育経験を持つ教員が授業を行う。皮膚の構造と機能を理解した上で身体の清潔とはどのような状態を指すか、また、清潔が阻害されたときの状態はどうか。生活の中でイメージしながら進めていく。療養者は自分で身なりを整えたり清潔を保持することが困難である。臥床状態での清潔保持方法など、具体的な援助方法を理解していく。衣類の種類や、保護、保温、湿度の調整などをふまえて衣類の選択や意味を考えていく。								
【到達目標】								
身体の清潔・衣生活の援助に関する基本的な知識・技術・態度を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
ナーシング・グラフィカ基礎看護学				演習前には事前学習を十分にして参加する。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】皮膚の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 清潔の意義 看護師の役割を理解する。皮膚・粘膜・毛髪などの生理的变化を理解する。生理的変化を正常に保つことの意味、人間の基本的ニーズや個別の生活習慣から清潔を考える。清潔援助の効果が理解できる。	9	【授業単元】全身清拭・寝衣交換 【授業形態】演習 【到達目標】全身清拭の一連の援助を実施する。 必要物品の準備ができ、適切な温度の湯、プライバシーの保持、寒冷への配慮、部位による拭き方の違いを意識して実施する。身体の可動性に合わせて和式寝衣交換を行う。					
2	【授業単元】清潔のアセスメント・衣生活・衣服の役割と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 対象にあった清潔ケアの選択と援助を理解する。清潔を阻害する要因、看護師としての役割を理解する。衣類の種類と身体の影響、療養者の衣類の選択が理解ができる。	10	【授業単元】身体各部の清潔 【授業形態】講義 【到達目標】 安全・安楽を考慮した身体各部(足浴・手浴・爪切り)の清潔の準備・手順・方法が理解できる。					
3	【授業単元】清潔援助の種類と方法 【授業形態】講義 【到達目標】 清潔援助と種類、方法および温熱・静水圧・浮力などの温浴の効果、清拭の効果が理解できる。	11	【授業単元】部分浴(足浴) 【授業形態】演習 【到達目標】 安全・安楽に留意し、患者の状況にあった清潔の援助が実施できる。安全に留意した爪切りが実施できる。					
4	【授業単元】寝衣交換の援助方法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 和式寝衣の留意点が理解できる。患者の状態にあった衣類交換(和式寝衣)の援助、関節可動域、良肢位を留意した衣類の着脱支援方法が理解できる。	12	【授業単元】洗髪・整容の援助方法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 洗髪道具の使用方法が理解できる。対象にあった爽快感を得られる洗髪・整容の援助方法が理解できる。					
5	【授業単元】全身清拭の援助方法 【授業形態】講義 【到達目標】 全身清拭の一連の援助が理解できる。プライバシー、温度など安全に援助を行うための要素、体位の固定・保持、各部分にあつた拭き方等を理解する。	13	【授業単元】洗髪・整容 【授業形態】演習 【到達目標】 一連の技術を根拠を持って理解する。 爽快感が得られる安全・安楽を考慮した洗髪・整容の援助方法が実施できる。					
6	【授業単元】清潔ケア(石鹼清拭) 【授業形態】講義 【到達目標】 清拭の方法の1つである、石鹼清拭の利点・欠点が理解でき、援助方法がわかる。	14	【授業単元】洗髪・整容 【授業形態】演習 【到達目標】 一連の技術を根拠を持って理解する。 爽快感が得られる安全・安楽を考慮した洗髪・整容の援助方法が実施できる。					
7	【授業単元】清拭と寝衣交換の援助方法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 既習であるボディメカニックスを活用した体位変換、安全、安楽など複合した清拭・寝衣交換の清潔ケアの援助の留意点、方法が理解できる。	15	【授業単元】評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】講義 【到達目標】修了認定試験・講義 課題の確認と知識の深化を行う。					
8	【授業単元】全身清拭・寝衣交換 【授業形態】演習 【到達目標】 全身清拭の一連の援助を実施する。 必要物品の準備ができ、適切な温度の湯、プライバシーの保持、寒冷への配慮、部位による拭き方の違いを意識して実施する。身体の可動性に合わせて和式寝衣交換を行う。	【評価について】 科目終了後、筆記試験100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						
【特記事項】								
課題を実施して参加することを原則とする。								

科目名 (英)	共通基本技術 (Common basic skill )	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	江川 ゆき	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分	曜日・時間	
【授業の学習内容と心構え】								
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。看護師として必要な基本的技術を学ぶ。医療安全とは何か、安全管理の基礎を理解する。そしてボディメカニクスをふまえて、力学を基本に事故防止を第一に考え、体重移動や体の使い方を理解していく。椅子など器具の名称や点検などの確実な操作など、看護に必要な基礎的で重要な内容が含まれている。また、感染予防に関して、感染源となる病原微生物や、感染経路など感染症の要素をおさえるとともに、具体的な感染防御方法を先行して理解していく。手洗い、マスク、医療用手袋の着脱や廃棄方法、廃棄物の分別を行う。清潔操作では、清潔・不潔の区別および無菌操作技術の習得を目指していく。実務を行う上で重要であり、確実に習得すべき科目である。倫理的取り組みや意識が重要であり、看護師として守るべきことを明確にしていく。創傷管理については創傷治癒過程に応じた観察ポイントや援助方法を理解する。								
【到達目標】								
医療安全の意義を理解する。患者のみならず医療者の医療安全を理解する。 作業域・動作経済性、看護師のボディメカニクスと移乗・移動方法では物理学をもとに事故防止の観点から行動することを習得する。 感染予防の意義と看護実践を理解する。 創傷の種類や治癒過程など、創傷の基礎知識を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 実習で使える看護技術アドバンス インターメディカ				【授業外における学習】 演習前には事前学習を十分にして参加する。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】標準予防策 【授業形態】講義 【到達目標】 標準予防策が理解できる。医療者としての倫理的行動が理解できる。 衛生学的手洗いを理解する。 個人防護具の種類を知り、正しい着脱の方法を理解できる。 医療廃棄物の取り扱いを理解する。	9	【授業単元】皮膚・創傷の管理 【授業形態】講義 【到達目標】 創傷の種類や治癒過程など、創傷の基礎知識を理解する。 創傷の治癒過程に応じた観察ポイントや援助方法を理解する。 ドレッシング材や包帯の種類、特徴を理解する。 包帯法の技術の実際を知る。					
2	【授業単元】手指衛生・防護用具の選択と着脱 【授業形態】講義 【到達目標】 衛生学的手洗い、帽子、マスク、ガウン、処置用エプロン、手袋の着脱ができる。 感染予防具を使用後の正しい破棄方法ができる。 最終的な手洗いを終えて処置終了まで行える。※レポート提出10点	10	【授業単元】無菌操作の基礎1 【授業形態】講義 【到達目標】 消毒・滅菌方法、滅菌物の取り扱い、無菌操作の必要性が理解できる。医療廃棄物の取り扱いが理解できる。 ※中間小テスト20点					
3	【授業単元】医療従事者の安全を守る技術・ボディメカニクス① 【授業形態】講義 【到達目標】姿勢と体位 ボディメカニクスと力学的関係を理解する。身体の可動性、体位の種類、体位の変化と循環動態の変化。看護師の作業域、腰痛問題と援助技術などから体位変換、必要な知識が理解できる。	11	【授業単元】無菌操作の基礎2 【授業形態】講義 【到達目標】 清潔・不潔の区別、ゾーニングについて理解できる。 滅菌物の基本的取り扱いが理解できる。清潔・不潔の意識および镊子、カスト、ディスポ万能つば、ガーゼの受け渡し。					
4	【授業単元】医療従事者の安全を守る技術・ボディメカニクス② 【授業形態】講義 【到達目標】 ボディメカニクスを意識した体位変換(水平移動、仰臥位から側臥位、立位)ができる。安楽な体位を理解できる。	12	【授業単元】無菌操作 【授業形態】演習 【到達目標】 手洗い、無菌操作の準備、滅菌物の取り扱い、镊子の取り扱い、镊子を用いた消毒綿球の扱いを実施できる。 滅菌物の取り扱いと患者に配慮した皮膚消毒(廃棄含む)ができる。 ※レポート提出 10点					
5	【授業単元】体位変換 【授業形態】演習 【到達目標】 ボディメカニクスを意識した体位変換(水平移動、仰臥位から側臥位、立位)ができる。	13	【授業単元】看護事故の構造とヒューマンエラー 【授業形態】講義 【到達目標】 ヒューマンエラーの原因とタイプを理解する。 医療事故の種類を理解する。 看護学生の実習と法的責任について理解する。					
6	【授業単元】安楽な体位 【授業形態】演習 【到達目標】体位変換 安楽を考えたポジショニングができる。 ※レポート提出10点	14	【授業単元】看護学生が起こしやすい医療事故 【授業形態】講義 【到達目標】 医療事故の分析を実際にを行い、対策を考え事ができる。 分析の重要性を理解できる。 分析から考えた対策を発表できる。(GW形式)					
7	【授業単元】医療安全・感染予防 【授業形態】講義 【到達目標】 医療現場での安全の概念をしめる。 感染予防の意義と成立成立過程を理解する。 感染症の要素である感染源・病原体保有者・微生物の排出・感染経路・侵入門戸・宿主等、基本的な内容を理解できる。	15	【授業単元】評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。60点					
8	【授業単元】医療従事者の安全を守る技術・感染予防策 【授業形態】講義 【到達目標】 感染症(法)の理解と予防の意義が理解できる。 細菌・ウイルス曝露予防を理解できる。 感染経路別予防策を理解することができる。		【評価について】 演習事前・事後レポート点各10点×3、小テスト10点、修了認定試験60点(筆記試験) 合計100点満点での評価とする。					
【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。								

科目名 (英)	人間関係成立の技術 (relationships skill )	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	依田 康世	
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 2時限	
【授業の学習内容と構成】								
看護師としての臨床経験があり、他の看護学校での教育経験もある教員が授業を行う。本講義では、看護に必要な対人関係を成立させるための援助方法を理解する。対人関係スキルを学習する前に、人権と権利擁護に関して看護者の倫理綱領を基に学び発展させていく。また、看護の対象者は年齢も幅広く、発達段階によってもコミュニケーション方法も工夫が必要である。事例を用いながら実践可能なコミュニケーション方法を学ぶ。専門職に必要となる、周囲との関係も良好に行えるよう対人関係成立を広く捉えて学習を進めていく。								
【到達目標】								
1.看護におけるコミュニケーションの基礎的知識を習得し援助方法を理解する。 2.看護倫理を理解し、看護者としての責任を自覚する。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
ナーシング・グラフィカ基礎看護学				演習前には事前学習を行って参加する。				
回 授業概要				回	授業概要			
1	【授業単元】コミュニケーションの意義と目的 【授業形態】講義 【到達目標】 看護学でコミュニケーションを学ぶ意義が理解できる。構成的工 ンカウンターの実施、学生間のコミュニケーションを考える。			9	【授業単元】看護場面のコミュニケーション② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。患者への挨 拶、身だしなみ、場に応じた対応などの配慮を考えることができる。			
					【授業単元】カウンセリング 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 カウンセリングの基本が理解できる。積極的傾聴と共感的理解 について理解できる。			
2	【授業単元】コミュニケーションの基礎知識 【授業形態】講義 【到達目標】 コミュニケーションの基本原理、構造とプロセス(自己理解・他者 理解、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、 言語・身体・空間・身体接触・パーソナルスペースなど)が理解 できる。			10	【授業単元】看護場面のコミュニケーション③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。患者への挨 拶、身だしなみ、場に応じた望ましい対応が理解できる。また、 教育的関わりの必要性が理解できる。			
					【授業単元】看護場面のコミュニケーション④ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。意識障害、言 語的コミュニケーションが困難な事例から非言語的コミュニケーション方法を考えることができる。			
3	【授業単元】看護倫理 【授業形態】講義 【到達目標】 看護者の職業倫理に基づき、自覚と責任を持つことができる。 看護の法的責任や倫理原則(倫理綱領・ICN)を理解していく。患 者的人権・権利擁護、個人情報保護、倫理的ジレンマの理解が できる。			11	【授業単元】看護場面のコミュニケーション⑤ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。患者への挨 拶、身だしなみ、場に応じた望ましい対応が理解できる。また、 教育的関わりの必要性が理解できる。			
					【授業単元】看護場面のコミュニケーション⑥ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。意識障害、言 語的コミュニケーションが困難な事例から非言語的コミュニケーション方法を考えることができる。			
4	【授業単元】看護における関係構築に向けたコミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】 インフォームドコンセントと看護師の役割が理解できる。 (ペイシェント・アドボカシーや患者説明についての理解)			12	【授業単元】看護場面のコミュニケーション⑦ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。意識障害、言 語的コミュニケーションが困難な事例から非言語的コミュニケーション方法を考えることができる。			
					【授業単元】倫理的ジレンマ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 倫理的ジレンマとは何か理解できる。看護場面の事例を体験し、 公正・公平・権利擁護を意識したコミュニケーションの必要性を 理解できる。			
5	【授業単元】医療現場のコミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】 社交的・専門的コミュニケーションと必要な態度が理解できる。			13	【授業単元】人間関係成立の技術の基本 【授業形態】講義 【到達目標】 事例の振り返りを行い、個人ワーク・ディスカッションで共有する ことにより人間関係成立に必要な基本的対応が理解できる。			
					【授業単元】評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】修了認定試験・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。			
6	【授業単元】コミュニケーションの評価 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 プロセスレコードと分析について理解する。ロールプレイを通 じて理解する。リフレクションの実施と客観的評価について、医療 者間の報告・連携・調整・交渉について理解できる。			14	【授業単元】評価について 科目終了後、筆記試験100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
					【授業単元】一般的なコミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】 事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを通して自己 の課題を意識することができます。			
7	【授業単元】看護場面のコミュニケーション① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 看護場面の事例をもとにコミュニケーションを実施し、振り返りを 通してより良いコミュニケーション方法を理解する。患者への挨 拶、身だしなみ、場に応じた対応などの配慮を考えることができます。			15	【評価について】 科目終了後、筆記試験100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
					【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。			



科目名 (英)	看護過程 (nursing process)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	依田 康世
	看護学科	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 2時限
【授業の学習内容と構え】							
看護師として臨床経験のある教員が授業を行う。看護過程の展開においては科学的思考と判断能力が求められる。その基盤となるのが問題解決過程やクリティカルシンキングである。これらの思考をもとに看護過程のプロセスを学ぶ。これまでの既習学習の内容の活用が求められるため、各自、効果的な学習方法や取り組み姿勢についても検討しておく必要がある。							
【到達目標】							
科学的思考を基盤に看護過程の展開方法が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ基礎看護学 ヘンダーソンの看護理論を用いた看護過程の展開				演習前には事前学習を十分にして参加する。			
回 授業概要				回 授業概要			
1	【授業単元】看護過程の意義 【授業形態】講義 【到達目標】 看護過程とは何か理解できる。 看護過程の5つの構成要素が理解できる。 看護過程展開における基盤となる考え方が理解できる。			9	【授業単元】事例を用いた看護過程の展開② 【授業形態】演習 【到達目標】 各自で取り組んだ情報整理と分析・解釈～関連図について意見交換し疑問など解決することで理解を深めることができる。 グループで看護診断1つを見出すことができる。		
					【授業単元】演習の中間まとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 2回目までの演習の内容を振り返り、看護過程のプロセスについて理解を深めることができる。 看護過程の第4段階 実施 の内容について理解できる。		
2	【授業単元】V.ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開 【授業形態】講義 【到達目標】 ヘンダーソンの理論を用いたアセスメントツールが理解できる。 アセスメントの意味が理解できる			10	【授業単元】事例を用いた看護過程の展開③ 【授業形態】演習 【到達目標】 各自で取り組んだ期待される成果、看護計画の内容について意見交換し理解を深めることができる。		
					【授業単元】事例を用いた看護過程の展開④ 【授業形態】演習 【到達目標】 各自の計画に沿った援助について一部実施することができる。 (点滴をしている患者の寝衣交換を含む)		
3	【授業単元】看護過程の第1段階 アセスメント 【授業形態】講義 【到達目標】 アセスメントの種類・初回アセスメントのプロセスが理解できる。 アセスメントに必要な知識・技術の活用方法が理解できる。			11	【授業単元】事例を用いた看護過程の展開⑤ 【授業形態】演習 【到達目標】 各自の計画に沿った援助について一部実施することができる。 (点滴をしている患者の寝衣交換を含む)		
					【授業単元】看護過程の第2段階 看護診断 【授業形態】講義 【到達目標】 関連図を基に根拠を明確にした問題や強みを抽出することができる。		
4	【授業単元】看護過程の第1段階 アセスメント 【授業形態】講義 【到達目標】 ヘンダーソンのアセスメントガイドを活用した情報の分析・解釈の方法が理解できる。 全体像の構造化による関連図作成の意味が理解できる。			12	【授業単元】事例を用いた看護過程の展開⑥ 【授業形態】演習 【到達目標】 各自の計画に沿った援助について一部実施することができる。 (点滴をしている患者の寝衣交換を含む)		
					【授業単元】事例を用いた看護過程の展開⑦ 【授業形態】講義 【到達目標】 各自の計画に沿った援助について一部実施することができる。 (点滴をしている患者の寝衣交換を含む)		
5	【授業単元】看護過程の第3段階 看護計画 【授業形態】講義 【到達目標】 問題が解決できる、あるいは望ましい目標につなげられる具体的な成果の設定が理解できる。 観察計画(OT)・援助計画(TP)・教育計画(EP)の意味が理解できる。			13	【授業単元】看護過程の第5段階 評価 【授業形態】講義 【到達目標】 看護記録の意義と経過記録の記載方法について理解できる。 看護過程における評価の意義と評価方法が理解できる。		
					【授業単元】評価 【授業形態】修了認定試験・講義 【到達目標】		
6	【授業単元】事例を用いた看護過程の展開 【授業形態】講義 【到達目標】 事例を確認し、今後の演習方法、自己の取り組みについて理解できる。			14	【授業単元】評価について 科目終了後、筆記試験100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
					【評価について】 科目終了後、筆記試験100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
7	【授業単元】事例を用いた看護過程の展開① 【授業形態】演習 【到達目標】 各自で取り組んだ情報整理と分析・解釈について意見交換し疑問など解決することで理解を深めることができる。			15	【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。		
					【特記事項】 課題を実施して参加することを原則とする。		



科目名 (英)	地域・在宅看護概論Ⅰ	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	峰村 淳子
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 2時限
学科・専攻	看護学科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
<p>看護師として大学病院に勤務後、看護基礎教育に従事し後半は副校長として学校管理も担う。この職場(病院・学校)の所在地が日本の訪問看護の草分け的な地域(新宿区)という特性から、看護学基礎教育カリキュラムへの科目創設前から施設側の協力を得て自校の教育に訪問看護実習を取り入れ、学生と共にフィールド活動を実践。平成8年に創設された「在宅看護論」の教育内容の開発時はその経験とネットワークを活かし行った。自身はこの領域での研究、書籍の執筆、複数の看護基礎教育機関や現任教育にも関わった。研究テーマは、退院支援に関する事例であり、それぞれの経験を本科目領域についての教授活動に活かす。</p> <p>超高齢社会の到来と保健医療福祉政策の転換とともに、重要性が増している在宅ケアの中で、看護者として病気や障害で療養する人々の健康上の問題と生活への影響を理解し、療養者や家族が安心してその人らしい生活を継続していくために必要な在宅看護の基礎知識を身につける。また、看護の役割を理解し、看護の動向を把握する。今後、誰もが年齢を重ねつつ体験しなければならない課題であり、自分の問題として主体的に考えながら学んで欲しい。</p>							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護が推進されている社会背景を説明できる。</li> <li>2. 地域・在宅看護の対象となる人々とその特徴について説明できる。</li> <li>3. 地域・在宅看護の提供機関と方法について説明できる。</li> <li>4. 地域・在宅看護の基盤となる考え方(役割、機能、理念など)が説明できる。</li> <li>5. 看護専門職としての地域・在宅看護の役割を考える。</li> </ol>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 メディカ出版 授業時別途資料の配布あり				<p>『予習』講義テーマに関連するテキストの該当ページをよく読んで、不明点を書き出しておくなどして、授業中に解決できるようにする。質問も積極的に。</p> <p>『復習』講義で配布した資料やテキストを必ず読み返しておくこと。</p> <p>課題学習を課すこともあります。※フィールドワーク「なごみの家」</p>			
授業概要				回			
<p>【授業単元】地域・在宅看護の概念 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 1, 2 地域・在宅看護論の位置づけ、学習内容が理解できる。 地域・在宅看護の変遷を社会の動向と関連づけ説明できる。 地域・在宅看護の今後の課題について考えてみる。</p>							
<p>【授業単元】地域で生活する療養者と家族 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 3, 4 地域社会で生活する療養者と家族の特徴について説明できる。 地域・生活・暮らしの概念が説明できる。 地域での様々な暮らしを支える社会資源について考える。 (コミュニティ、施設など)※暮らしの保健室のVTR視聴</p>							
<p>【授業単元】地域・在宅看護の対象と方法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 5, 6 各健康段階にある療養者の特徴が説明できる 訪問看護師の活動方法について説明できる。 訪問看護師の活動の実際VTR視聴</p>				※			
<p>【授業単元】地域・在宅看護の基盤、修了認定試験 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 7、試験 在宅看護の提供機関について説明できる。 在宅看護の役割・機能について説明できる。</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】</p>							
<p>【特記事項】</p>							



科目名 (英)	老年看護学概論 I	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	板石 厚江						
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分	前期						
学科・専攻	看護学科												
【授業の学習内容と心構え】													
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。現在の社会的状況を含め高齢者を理解する。高齢者の身体・精神的に起こりうる変化をとらえ、保健医療福祉サービスを必要とする状況の理解および看護に結び付ける導入の学習になる。													
【到達目標】													
超高齢社会の現状と老年看護の役割を理解する。 ライフサイクルと社会的役割の変遷を理解する。 加齢に伴う身体的・精神的变化を理解する。 加齢に伴う变化の適応に向けた支援について理解する。													
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】									
				事前にテキストや課題を行ってから講義に参加してほしい。医療情報について、社会の動向を常にキャッチする。									
回	授業概要			回	授業概要								
1	【授業単元】高齢者の概念 【授業形態】講義 【到達目標】 ライフサイクルと超高齢社会の変遷と現状が理解できる。 人口動態の変化、生きてきた時代背景、健康指標から見た高齢者、生活の視点			9	【授業単元】高齢者疑似体験 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 高齢者の身体の変化を日常生活体験により理解できる。								
2	【授業単元】超高齢社会の課題 【授業形態】講義 【到達目標】 高齢者にとっての健康、加齢に伴う変化とQOLについて理解できる。 フレイル、平均寿命と健康寿命、一人暮らし、高齢者のいる世帯、子どもの関係			10	【授業単元】高齢者疑似体験・特徴 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 身体・精神・社会的影響を理解できる。								
3	【授業単元】高齢者と発達と成熟 【授業形態】講義 【到達目標】 発達課題の理解ができる。 発達理論、エリクソン、ペック、ハビガースト			11	【授業単元】生活を支える看護 【授業形態】講義 【到達目標】 基本動作と日常生活への影響が理解できる。 転倒・転落、事故防止、適応に向けた支援 廃用症候群のアセスメント								
4	【授業単元】高齢者の身体的特徴 【授業形態】講義 【到達目標】 老化のメカニズム、加齢変化が理解できる。			12	【授業単元】老年看護の特徴 【授業形態】講義 【到達目標】 高齢者の特徴を踏まえ、高齢者の生きがいを支える看護を理解することができる。								
5	【授業単元】加齢による身体機能の変化 【授業形態】講義 【到達目標】 加齢変化と生活への影響がアセスメントできる。 ・活動・休息、嚥下、口腔、消化・吸収			13	【授業単元】高齢者の生きがいと社会参加 【授業形態】講義 【到達目標】 高齢者の尊厳、生活の可能性、自立・自律を考えることができる。 老いのプロセスを支える。家族を支える。関連職種とのチームアプローチ								
6	【授業単元】加齢による身体機能の変化 【授業形態】講義 【到達目標】 加齢変化と生活への影響がアセスメントできる。 ・セクシャリティ、皮膚・清潔、バイタルサイン			14	【授業単元】身体機能の低下・予防と地域の取り組み 【授業形態】講義 【到達目標】 身体機能の低下の予防と地域取り組みが理解できる。 生活機能の低下、介護の予防、								
7	【授業単元】加齢による精神機能の変化 【授業形態】講義 【到達目標】 認知機能の低下と生活の影響が理解できる。 知能・人格・創造性・自己概念・自己尊重			15	【授業単元】評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】修了認定・講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。								
8	【授業単元】高齢者とのコミュニケーション 【授業形態】講義 【到達目標】 高齢者とのコミュニケーションが理解できる。 聴覚機能、視覚機能、精神機能、人権尊重と尊厳			【評価について】 小テスト10点 課題レポート10点 筆記試験80点									
【特記事項】													
課題を実施して参加することを原則とする。													

科目名 (英)	小児看護学概論 I (Pediatric Nursing)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	藤田 雅美
		授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(1)	開講区分	後期 曜日・時間
学科・専攻	看護学科						
【授業の学習内容と心構え】							
看護師として臨床経験のある教員が授業を担当する。合計特殊出生率(内閣府)は2005年に1.26まで低下し、2015年には1.45と上昇したが、2021年には1.33と下降している。出生率低下は社会を支える構造が崩れる恐れがあり、危機的状況から国での対策も行われている。また、高齢出産の増加や教育に対する多様な考え方なども含め、子育て環境は変化が著しい。概論 I では歴史の変遷や、小児の成長発達の基本的理解および社会的背景を理解し法の整備や人権についても考えていく。人間理解にとって重要な位置にある科目である。							
【到達目標】							
小児看護の変遷と社会的背景を理解する。 人権の尊重と擁護を理解する。 小児の成長発達を理解する。 成長発達に応じた健康支援を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ナーシング・グラフィカ 小児看護学概論 その他、配布資料				予習・復習を含め、基本的な成長発達を理解するように努めてほしい。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】 小児を取り巻く社会的背景 【授業形態】 講義 【到達目標】  小児看護の歴史的変遷が理解できる。 社会的背景と子どもの人権を考えることができる。	9	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  新生児から幼児の成長発達 ①成長発達と評価方法 ②機能的発達が理解				
2	【授業単元】 小児看護の概念 【授業形態】 講義 【到達目標】  小児看護の概念が理解できる。 児童観、育児観の変遷が理解できる。	10	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  乳児から幼児の成長発達と生活の支援が理解できる。 ①栄養、睡眠、排泄、組織液の変化				
3	【授業単元】 子どもと家族を取り巻く社会環境 【授業形態】 講義 【到達目標】  社会環境と虐待、育児不安、家庭と生活習慣が理解できる。	11	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  学童期の成長発達と生活の支援が理解できる。				
4	【授業単元】 小児看護の倫理 【授業形態】 講義 【到達目標】  子どもの人権と権利擁護が理解できる。 ①世界の子育て環境 ②国際社会と日本の母子保健	12	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  思春期の成長発達と生活の支援が理解できる。				
5	【授業単元】 児童の権利に関する条約 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】  児童の権利に関する条約の歴史と現状が理解できる。 ①子どもの権利条約 ②子どもの人権の変遷	13	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  理論家の理論をもとに各期の発達課題を理解できる。 ①ポウルビィ、エリクソン、ピアジェ				
6	【授業単元】 インフォームドアセント 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】  児童の治療・処置におけるインフォームドアセントと活用方法が理解できる。 ①成長発達と理解 ②発達にあつた説明の意義	14	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  愛着形成をはじめ、各期の運動機能、精神発達、を経時的に理解できる。				
7	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  出生時から1年間の成長発達が理解できる。 ①出生時の循環・呼吸の変化 ②生理的体重減少、貧血、黄疸	15	【授業単元】 評価を含めた振り返りと確認 【授業形態】 講義 【到達目標】 課題の確認と知識の深化を行う。 修了認定試験・講義				
8	【授業単元】 小児の成長発達 【授業形態】 講義 【到達目標】  出生時から1年間の成長発達が理解できる。 ①原始反射 ②形態機能的変化 ※成長発達の変化図を作成していく。		【評価について】 修了認定試験にて評価を行う。修了認定評価基準に沿って評価する。				
【特記事項】 講義前に教科書の該当箇所を必ず熟読してくること。							

科目名 (英)	母性看護学概論 I (Motherly nursing science outline)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	板橋 知子	
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1時限	
【授業の学習内容と心構え】								
(公社)東京都助産師会に所属し、江戸川区の助産師会の3役、区内の母子保健活動をしている開業助産師であり、助産師として30年以上の経験をもつ講師が教授する。母性看護では対象者は誰か?妊娠婦と子どもという狭い対象ではなく、幅広く捉えていくように皆さんと考えていき、対象者の健康維持増進、疾病予防を目的とした看護の展開をしていく。助産師として30年この分野を見続けてきたものが、女性の一生を柱にして、家族を含めたその周りの人達の関わり、またどんな子ども達もより健康に育っていくように母性看護の役割をいっしょに考えていきたいと思っています。								
【到達目標】								
・女性のライフサイクル(ステージ)、各期の特徴と健康問題を述べることができるようになる。健康維持増進、疾病予防の看護を考える事ができるようになる。 ・周産期の母親の特徴、新生児・乳児期の児の特徴を述べることができるようになる。さらに周産期の適応に向けた看護を考えることができるようになる。 ・子育てをしていく対象者を取り巻く現状・課題について述べができるようになる。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
ナーシンググラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護:メディカル出版、病気がみえる産科:メディックメディア、参考図書 母性看護学概論:医学書院								
回	授業概要	回	授業概要					
1	<p>【授業単元】母性看護の基盤となる特性、対象の特性、家族とは 【授業形態】講義 【到達目標】・母性とは何か自分の考えを述べる。 ・母性看護学の対象を述べることができる ・愛着・母子(父子)相互作用・母親役割獲得のについて様々な理論を学ぶ。 ・エリクソンの発達課題を学び、ライフサイクルでの課題を理解することができる。</p>	9	<p>【授業単元】リプロダクティブヘルスケア 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・家族計画・受胎調節法について理解する。 ・避妊法の種類、考え方、作用機序、間違った考え方について具体的に理解する。 ・性感染症の種類、感染経路、予防について理解する。 ・包括的性教育とはなにについて考える</p>					
2	<p>【授業単元】母性看護の基盤となる特性、対象の特性、家族とは 【授業形態】講義 【到達目標】 ・リプロダクティブヘルス／ライツの定義・内容を理解する ・リプロダクティブヘルス／ライツに関する世界の変遷を知る ・母性看護実践を支える4つの概念を述べることができる</p>	10	<p>【授業単元】リプロダクティブヘルスケア 【授業形態】講義・演習 【到達目標】喫煙女性と家族の看護 ・HIV／AIDSについて、歴史・治療・生活・罹患女性のケア、特に妊娠構築のケアについて知る。 ・人工妊娠中絶と看護、中絶を受ける女性のケア、動向について知る ・性暴力・児童虐待・DV・強姦などを受けた方へのケアについて考える</p>					
3	<p>【授業単元】母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・母性看護の変遷(起源・発展・公衆衛生など)ベースに今の母子保健に関する基盤を知る。 ・母子保健統計を調べることで動向を理解する ・他国との比較ができる</p>	11	<p>【授業単元】不妊症・加齢とホルモンの変化 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・妊娠性に関する不妊という健康問題の特徴について理解する ・不妊治療を受けているカップルへの支援について理解する ・加齢に伴う女性の心理・社会的・身体的特性を理解する(ホルモンの変化を含む) ・更年期・老年期女性の健康問題について理解する</p>					
4	<p>【授業単元】母子保健にかかる法律／施策 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・母子保健のための法律や施策を理解する ・健やか親子21・男女共同参画社会などの施策を理解する ・防災対策についての取り組みを考える ・周産期医療システムを理解する</p>	12	<p>【授業単元】母性看護に必要な看護技術 【授業形態】講義 【到達目標】 ・母性看護における看護過程の展開方法に触れる。 ・情報収集、アセスメント技術の特性を理解する。 ・親になること、親になることを選ばない選択の心理的側面を感じる(女性の自己決定権)。 ・親になる過程をその人なりに適応することを理解する。</p>					
5	<p>【授業単元】母性看護の対象理解① 【授業形態】講義 【到達目標】 ・生殖器の形態・解剖・機能(女性器・男性器)を理解する。 ・第二次性徵・女性の性周期・妊娠のメカニズムについて理解する ・月经周期を中心に女性の変化を知る ・上記に伴う問題・課題に気づく</p>	13	<p>【授業単元】全体を通しての補足・質問の時間 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・自分がどの部分に興味があるか、学びたいか、理解できないかを知る。 ・授業内で取り組めなかつたところを補足する</p>					
6	<p>【授業単元】母性看護の対象理解② 【授業形態】講義 【到達目標】 ・トの発生・性分化のメカニズムを理解する ・性分化疾患について理解する</p>	14	<p>【授業単元】倫理的課題の実践 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・倫理的課題について分析方法を理解する ・事例を通して実践的な倫理課題の取り組み方を理解する ・母性保健における課題を話し合うことができる。(グループワーク)</p>					
7	<p>【授業単元】女性のライフステージ各期における看護① 【授業形態】講義 【到達目標】 ・月経異常の症状・診断・治療・予防について理解する ・女性生殖器の腫瘍の症状・診断・治療・予防について理解する</p>	15	<p>【授業単元】修了認定試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 各単元で学んだことを評価できる</p>					
8	<p>【授業単元】女性のライフステージ各期における看護② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ・思春期・成熟期・更年期・老年期それぞれのステージの身体的特徴・心理的特徴・社会的特徴を理解する。 ・各期の看護問題と看護を考える。</p>		<p>【評価について】各単元の終了後に、Teams内での小テスト(振り返り)を行い、それを評価に入れる。(14マックス2点) 全単元終了時に、筆記試験で行い評価する。(72点分) 合計100点満点とする。</p>					
【特記事項】								
各単元終了後の小テストは当日の23:59としている。遅れての提出でもかまわない ので、あきらめずに提出してほしい。								